

中高大学生を対象とした
自分・社会・世界に関する
意識調査アンケート
調査結果報告書 2023



中高大学生を対象とした
自分・社会・世界に関する
意識調査アンケート
調査結果報告書 2023

関西 NGO 協議会

目次

はじめに	… 3
概要説明	… 4
アンケート設問一覧	… 6
調査結果① 単純集計結果（全体・校種別・ジェンダー別）	
自分編	… 10
社会・世界編	… 25
SDGs 編	… 45
調査結果② クロス集計分析結果	… 62
おわりに	… 70
KNC について	… 71

はじめに

本冊子は、中学・高校・大学に通うユース世代を対象に（特活）関西 NGO 協議会が実施した、「自分・社会・世界に関する意識調査アンケート」の結果をまとめたものです。

当会は、2021 年度に 1000 人弱のユースを対象とした SDGs に関するアンケート調査を行い、『中高大学生を対象とした SDGs 意識調査アンケート 調査結果報告書 2021』¹を作成しました。そして、その結果を踏まえ、ユースが SDGs をどのように捉えているのかなどをさらに深掘りするべく、2022 年度に合計 20 名のユースを対象にインタビューを行いました。そちらは『中高大学生を対象とした SDGs ヒアリング調査 インタビュー集 2022』²としてまとめています。

今回、上記 2 つの調査を経てさらなるアンケート調査を行うべく、ユース事業に関わる方 5 名にヒアリングをさせていただきました。その中で見えてきたのが、「ユースが抱える固有の『しんどさ』」の存在でした。ヒアリングであがった具体的な声としては、「何にそんなに不安・焦りを感じているのか」「社会情勢の不安定さが将来への不安に繋がりが得る（気候不安症なども）」「安定しなければという強迫観念から自尊心を失い、場合によっては鬱や摂食障害になる人も」といったものがありました。そうした『しんどさ』の中には、若さ故にどうしても抱えがちになってしまうようなものもあれば、時代や社会を背景とした現在のユースに特有のものもあると言えるのですが、そうしたものが個々人の言わば「余裕のなさ」となり、ひいては社会への無関心や投票率の低さなどに繋がっている可能性は否定できないのではないかと考えました。

実際には、今回のアンケートだけでこの仮説を立証することはなかなか難しかったと言わざるを得ませんが、そこに繋がりが得る、糸口となるようなヒントは見えたのではないかと考えています。

また、「コロナ明け」と言われること、SDGs の達成年限である 2030 年まで 10 年をきったことなどを踏まえ、ユースから「今」しか集められない回答・声ということも意識し、問を設定しています。

今回の「自分・社会・世界に関する意識調査アンケート」は、このような考え・仮説をもとにして作成しました。有難いことに、1200 人を超えるユースからの回答を集めることができました。必ずしもポジティブなものばかりでない、ユースによる正直な「声」を、この結果から拾っていただければと思います。

1



1 http://kansaingo.net/kansai-sdgs/2022/04/26/youthsdgs_surveyresults/

2



2 http://kansaingo.net/kansai-sdgs/2023/04/20/youthsdgs_interviews/

概要説明

アンケートは、クラス単位や学年単位等で、複数の学校に協力をいただいて実施しました。また前回（『中高大学生を対象としたSDGs意識調査アンケート調査結果報告書2021』）との大きな違いとして、今回のアンケートでは自認する性別（ジェンダー）を聞いており、それぞれの設問ごとに、男女のみジェンダー別集計を出しています。自認する性別（ジェンダー）について〈その他〉、〈回答しない〉を選択した方の集計については、各設問の選択肢によっては回答者数が0のものもあり、このアンケートを回答した友人・知人同士のやり取りの中で、ある程度の特定がなされる可能性を否定できないこと、そもそもの母数が少なく、アンケート結果の情報としての有用性が高いとは言い切れないことなどを鑑み、今回は掲載を割愛することとしました。ご理解いただければ幸いです。

前半の調査結果①では単純集計結果を報告します。既述の通り、校種別集計だけでなくジェンダー別集計も行ったことで、属性ごとの傾向などがよりわかりやすく表れています。また全体を通して、ジェンダー別よりも校種別の方に、より違いが表れやすい傾向が見られました。

続いて後半の調査結果②では、株式会社ファンドレックス協力のもと行ったクロス集計分析の結果を報告します。今の自分に対する満足度の低さの要因になり得るものは何なのか、大人・社会に対する気持ちとSDGsについての考えを掛け合わせるとどのような傾向が見られるのかなど、単純集計結果からだけでは読み取りきれない部分を探りました。

詳細は、10ページからの調査結果①、62ページからの調査結果②にて、ぜひご確認ください。

■調査対象

主に関西地域の中学生・高校生・大学生

■調査期間

2023年9月19日（火）～2023年10月20日（金）

■調査方法

インターネット上のアンケートフォームにて回答依頼、回収（主に学校関係者に協力を依頼し、実施・回収をしました。）

■回答数

1259名

■回答者属性

住んでいる都道府県別：滋賀県45名、京都府107名、大阪府829名、兵庫県221名、奈良県31名、和歌山県6名、その他20名（三重県、岡山県、北海道、富山県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、鳥取県、広島県、福岡県、長崎県、熊本県、マレーシア、不明）

自認する性別（ジェンダー）別：男性573名、女性646名、その他11名、回答しない29名

校種別：中学生42名、高校生675名、大学生542名

※以下は集計の際に行った細かな調整についての説明です。

- ・Excelの関数を用いて重複する値を割り出し、ヒットしたものは同一人物の回答と見なし、一方を無効票としています。（無効票：1件）
- ・指定数以上の選択肢を選んでいる場合でも、集計対象としてそのままカウントしています。
- ・必須設問において〈その他〉を選択し、その自由記述としてスペースのみが記入されていた回答については、〈その他〉としてカウントしています。

※以下は、〈その他〉の具体的な内容を含めた自由記述の抽出の際に行った細かな調整についての説明です。

- ・英数字は半角に統一しています。
- ・固有名詞（SDGsなど）は表記を統一しています。
- ・意味が通じない文章、個人が特定される内容、重複している内容は除外しています。
- ・誤字脱字は最小限の修正としています（ユース自身の回答をなるべくそのまま掲載するため）。
- ・一部ランダム抽出も用いながら、ジェンダー・校種のバランスをできる限り考慮して抽出しています。また【問14-1】は、【問14】の回答が17のゴール全て網羅するよう考慮して抽出しています。

アンケート設問一覧

問 1 今のあなたにとって、より大事なこと（大切にしていること）を選ぶとしたらどれですか【3つまで選択可】【必須】

- ①将来のためになること（勉強・受験・就職活動など） ②金銭的なこと（仕事やアルバイトなど）
③社会貢献（人や社会の役に立つこと、環境に良いことなど） ④自分磨き（外見・内面）
⑤娯楽（趣味や遊び、楽しむこと） ⑥恋愛 ⑦友だち（同級生、先輩、後輩など）との時間
⑧家族（親、兄弟姉妹、親戚など）との時間 ⑨学校で過ごす時間 ⑩一人の時間 ⑪ SNS での繋がりが
・その他【自由記述】

問 2 新型コロナウイルス感染症の発生から3年余りがたち、【問1の『大事なこと』】は変化しましたか【必須】

- 全く変化していない 1 2 3 4 5 大きく変化した

問 2-1 その理由は何ですか、またどのように変化しましたか【自由記述】

問 3 今の自分（置かれている立場）について、満足していますか

※自分自身・家族や友だちとの関係・学校（大学）生活など全て含めて【必須】

- とても不満 1 2 3 4 5 とても満足

問 4 最近困っていること・悩んでいることはどんなことですか【複数選択可】【必須】

- ①自分の将来 ②勉強 ③進学 ④就職 ⑤お金 ⑥仕事やアルバイト ⑦政治や社会 ⑧自分の容姿
⑨自分の性格や能力 ⑩身体の健康 ⑪心の健康 ⑫恋愛 ⑬友人（同級生、先輩、後輩など）
⑭家族（親、兄弟姉妹、親戚など） ⑮学校・大学に関すること ⑯ SNS 上でのトラブル
⑰新型コロナウイルス ・その他【自由記述】

問 4-1 困っていること・悩んでいることがある時、主にどう対応しますか【必須】

- ①誰にも相談しない・したくない ②誰かに相談したいができない ③身近な人に相談する
④社会的なサポート（児童相談所・児童福祉機関、地域のサポートセンターなど）を利用する
⑤ SNS を使う ・その他【自由記述】

問 5 社会に出てから、自分の望む生き方ができると思いますか【必須】

- ①できると思う ②それなりにできると思う ③あまりできないと思う ④できないと思う
⑤わからない

問 5-1 その理由は何ですか【自由記述】

問 6 何か人・社会の役に立つことや、環境に良いことをしていますか

※どんな小さなことでも構いません【必須】

- ①している ②していない

問 6-1 【問6で<①している>を選んだ人のみ】 どのようなことをしていますか【自由記述】（人・社会の役に立つことや、環境に良いことについて）

問 6-1(1) 【問6で<①している>を選んだ人のみ】 それを始めたきっかけは何ですか【自由記述】

問 6-2 【問6で<②していない>を選んだ人のみ】

（人・社会の役に立つことや、環境に良いことをしていない）その理由は何ですか【自由記述】

問 7 新型コロナウイルス感染症の流行をへて、社会・世界の出来事への関心の高さは変化しましたか【必須】

- ①高くなった ②低くなった ③以前から高いまま変わっていない ④以前から低いまま変わっていない

問 7-1 その理由は何ですか【自由記述】

問 8 ロシアによるウクライナへの軍事侵攻によって、平和への関心の高さは変化しましたか【必須】

- ①高くなった ②低くなった ③以前から高いまま変わっていない ④以前から低いまま変わっていない

問 8-1 その理由は何ですか【自由記述】

問 9 新型コロナウイルス感染症・ウクライナ情勢以外で、関心のある社会・世界の問題はありますか【必須】

- ①ある ②ない

問 9-1 【問9で<①ある>を選んだ人のみ】 新型コロナウイルス感染症・ウクライナ情勢以外で、関心のある社会・世界の問題は何ですか【自由記述】

問 9-1(1) 【問9で<①ある>を選んだ人のみ】 その問題の責任は誰（どこ）にあると思いますか【自由記述】

問 10 今の日本の大人・社会について、どう感じていますか。正直な気持ちをお聞かせください【必須】

- とても不満 1 2 3 4 5 とても満足

問 10-1 今の日本の大人・社会について、ご自身の気持ちに近いものを選択してください【複数選択可】【必須】

- ①充分、若者の気持ちを理解していて、意見を反映している
- ②それなりに、若者の気持ちを理解していて、意見を反映している
- ③あまり、若者の気持ちを理解しておらず、意見を反映していない
- ④全く、若者の気持ちを理解しておらず、意見を反映していない
- ⑤何を言っても変わらないため、期待していない
- ⑥大人が作った社会の責任を若者に負わせないでほしい ⑦無力感・未来への絶望を感じる
- ⑧もっと若者の権利や主張を尊重してほしい ⑨大人は、将来を考えよい社会を築いてきた
- ⑩大人と力を合わせてもっと社会や世界をよくしていきたい ⑪わからない ・その他【自由記述】

問 11 海外志向について、ご自身の考えに最も近いものを選択してください【必須】

- ①海外留学や海外での就職などに関心がある
- ②海外留学や海外での就職などに関心があるが、経済的な問題で踏み出せない
- ③海外留学や海外での就職などに関心があるが、心理的な不安で踏み出せない
- ④海外留学や海外での就職などに関心がない ・その他【自由記述】

問 11-1 具体的な理由は何ですか【自由記述】

問 12 SDGs に関心がありますか【必須】

- ①とても関心がある ②関心がある ③どちらともいえない ④あまり関心がない ⑤全く関心がない

問 12-1 SDGs について、ご自身の考えに近いものを選択してください【複数選択可】【必須】

- ①そもそも SDGs はやる必要がない ②自分には関係がない ③ SDGs は聞き飽きた / 面倒
- ④ SDGs は目標があいまいで、具体性がない ⑤ SDGs をもっとよく知る機会を設けるべき
- ⑥政府や自治体、企業の取り組みなどに不信感がある ⑦もっと大人に積極的に取り組んでほしい
- ⑧どうせ自分には何もできないと感じる ⑨何をすればよいかわからない
- ⑩選択肢が多すぎて、行動に移せない ⑪自分なりに取り組んでいると感じる
- ⑫積極的に取り組んでいる（取り組みたい） ⑬もっと周りの人を巻き込んで、SDGs を推進していきたい
- ・その他【自由記述】

問 13 2030 年の SDGs 達成年限まであと 7 年となったことについて、どのように感じますか。＜客観的な視点で、ご自身の考えに近いものを選択してください＞【必須】

※地球規模の問題を解決するために、「誰一人取り残さない」という共通理念のもと、国際連合（国連）が加盟 193 カ国が達成を目指す 2030 年までの国際目標として定めたのが SDGs です。世界中の人が力を合わせる必要がありますし、誰一人として SDGs に無関係な人はいないので。（『こども SDGs なぜ SDGs が必要なのか分かる本』より）

- ①時間があるから達成できると思う ②7年後を想像できず、わからない
- ③時間が足りないから達成できないと思う ④状況が悪化しているから達成できないと思う
- ⑤目標によって達成できるゴールもできないゴールもあると思う ⑥あと7年の努力次第だと思う
- ・その他【自由記述】

問 13-1 2030 年の SDGs 達成年限まであと 7 年となったことについて、どのように感じますか。＜主観的な視点で、ご自身の考えに近いものを選択してください＞【複数選択可】【必須】

- ①あと7年しかないので、焦りを感じる ②あと7年しかないのに、まだよく SDGs を知らない人が多い
- ③あと7年あるので、達成できるよう頑張りたい ④あと7年で、みんなの努力が実ってほしい
- ⑤2030年達成のために、世界中の人が協力して取り組むべき ⑥2030年以降はどうなるのか気になる
- ・その他【自由記述】

問 14 SDGs の 17 のゴールのうち、ご自身がより気になるものはどれですか【3 つまで選択可】【必須】

1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17

問 14-1 その理由は何ですか【自由記述】

問 15 SDGs の 17 のゴールのうち、日本でより深刻な課題だと感じるゴールはどれですか【3 つまで選択可】【必須】

1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17

問 16 SDGs の 17 のゴールのうち、世界でより深刻な課題だと感じるゴールはどれですか【3 つまで選択可】【必須】

1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17

問 17 SDGs 達成のために自分が貢献できると思うゴールはどれですか【複数選択可】【必須】

1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17

SDGs の 17 のゴール

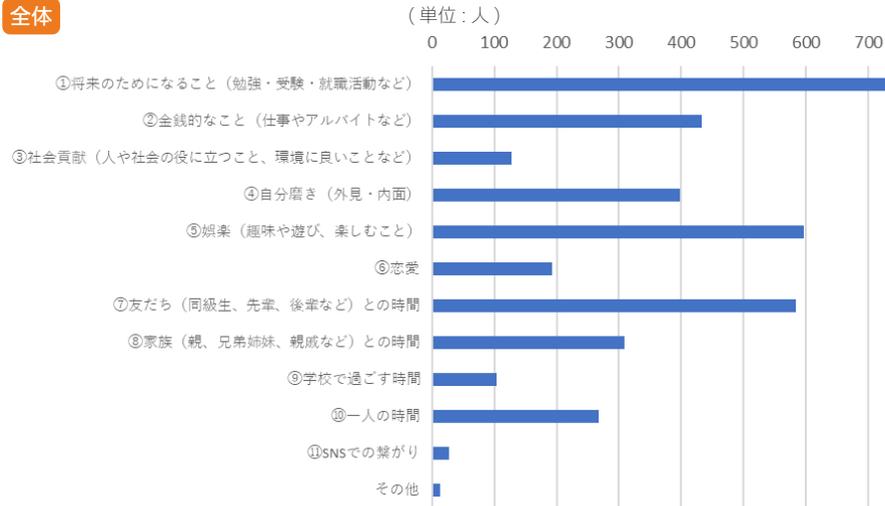
- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 貧困をなくそう | 2. 飢餓をゼロに |
| 3. すべての人に健康と福祉を | 4. 質の高い教育をみんなに |
| 5. ジェンダー平等を実現しよう | 6. 安全な水とトイレを世界中に |
| 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 8. 働きがいも経済成長も |
| 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう | 10. 人や国の不平等をなくそう |
| 11. 住み続けられるまちづくりを | 12. つくる責任つかう責任 |
| 13. 気候変動に具体的な対策を | 14. 海の豊かさを守ろう |
| 15. 陸の豊かさを守ろう | 16. 平和と公正をすべての人に |
| 17. パートナースHIPで目標を達成しよう | |

調査結果① (単純集計結果)

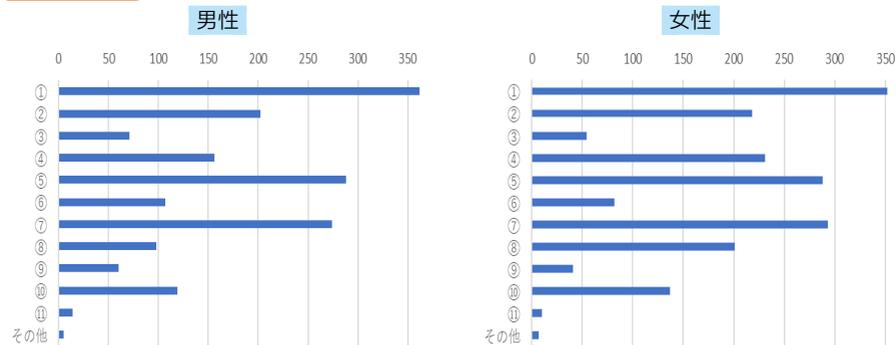
自分編

問1 今のあなたにとって、より大事なこと（大切にしていること）を選ぶとしたらどれですか【3つまで選択可】【必須】

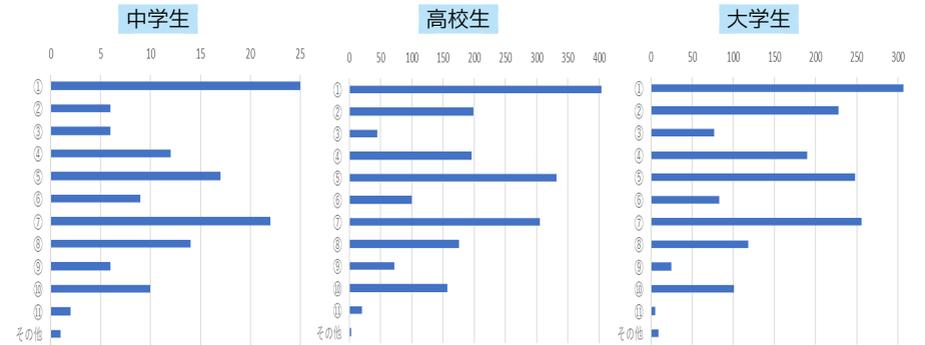
全体



ジェンダー別



校種別



<その他>の回答例

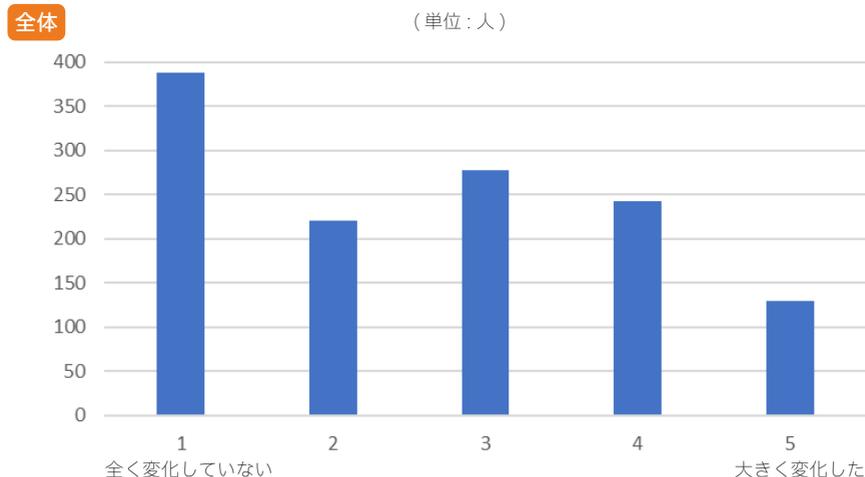
- ・部活動 (女性・大学生)
- ・推しに捧げる時間 (女性・大学生)
- ・食事、特に甘いものを食べている時が幸せ (男性・高校生)
- ・自分の健康 (女性・大学生)
- ・経験を積むこと (女性・大学生)
- ・家族の介護 (その他・大学生)
- ・他人の考えの理由、意味 (男性・高校生)

comment!

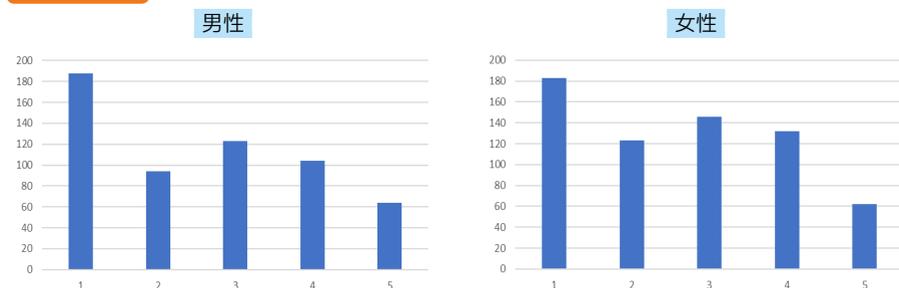
全体・ジェンダー別・校種別すべてに共通して、<①将来のためになること>が最も多く選択されています。次に多いのが、<⑤娯楽 (趣味や遊び、楽しむこと)>または<⑦友だち (同級生、先輩、後輩など) との時間>で、ジェンダーや校種によってそれぞれどちらが2番目、3番目に来るかが異なります。

またジェンダー別集計、つまり男女差において顕著な点として、女性の<④自分磨き (外見・内面)>、<⑧家族 (親、兄弟姉妹、親戚など) との時間>の数値が高いことが挙げられます。校種別集計では、<②金銭的なこと (仕事やアルバイトなど)>の数値が中学→高校→大学と増えていくのに対し、<⑨学校で過ごす時間>の数値は同順序で減っていくことが見て取れます。

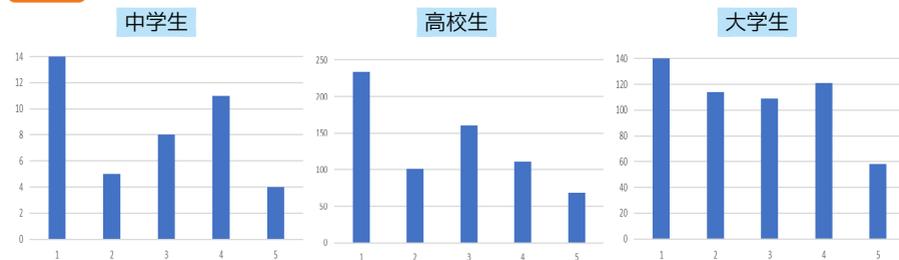
問 2 新型コロナウイルス感染症の発生から 3 年余りがたち、【問 1 の『大事なこと』】は変化しましたか【必須】



ジェンダー別



校種別



問 2-1 その理由は何ですか、またどのように変化しましたか

問 2 でく 1 > を選択した人の回答例 ※以下、回答 () 内の数字は、問 1 で選んだ選択肢を表す

- ・コロナで大きな変化はなかった (大学生・01, 04, 06)
- ・最初の 1、2 年は制限されることも多かったが、最近ではあまり制限されなくなっているから (大学生・05, 06, 07)
- ・コロナウイルスによって生活は一変してしまったが、自分の中の大切にしたい部分や考え方は変わっていないと感じるから (大学生・05, 07, 10)
- ・インドア派なので家の中でずっといれるから (高校生・01, 05, 08)

問 2 でく 2 > を選択した人の回答例

- ・当たり前のように毎日会えていた友達が、自粛期間で会えなくなって一緒にいることの幸せを感じたから (高校生・01, 05, 07)
- ・自粛期間が沢山あったので一人で過ごす時間が増えました (大学生・01, 07, 10)
- ・以前から大切にしていたことをより大切にしようと思ったから (高校生・01, 07, 08)
- ・コロナによる影響が少なかったから (大学生・01, 07, 08)

問 2 でく 3 > を選択した人の回答例

- ・コロナでもやることは変わらなかった (大学生・01, 02)
- ・わからない (高校生・01, 02, 03)
- ・学校に行けない日があったので学校生活の優先度が高くなった (高校生・02, 05, 07)
- ・ふつうに出かけられるようになったから (大学生・02, 05, 07, 08)

問 2 でく 4 > を選択した人の回答例

- ・コロナ禍を経て、考え方が変わったから (大学生・01, 02, 04, 05, 07, 09, 10)
- ・コロナを理由に友達と会いづらくなったときがあったから、友達や家族との時間を大事にしようと思った (高校生・01, 07, 08)
- ・大切な人がいっなくなかわからない (高校生・01, 08, 10)
- ・コロナ渦で、なかなか関わりが持てない中で、社会とのつながりや、自分の内面に向き合う機会になった (大学生・01, 03, 04)

問2で<5>を選択した人の回答例

- ・考える時間が増えたので自分の価値観が多様化していった（大学生・04, 05, 06）
- ・出来ることが増え、関わるコミュニティも増えたため（大学生・01, 03, 04, 05, 07, 08, 10）
- ・家族といる時間が増えより仲が増した（高校生・01, 02, 08）
- ・今を大切にすること（高校生・03）

comment!

全体、ジェンダー別、校種別すべての集計において、<1（全く変化していない）>を選んだ人が最も多いという結果になりました。

理由に目を向けてみると、<4>や<5（大きく変化した）>を選択した人の回答内容に、周りの人との関係性に関わるものが目立ちます。ユースにとって、新型コロナウイルスのパンデミックが、自分と周りの人やコミュニティとの関係性に目を向ける一つのきっかけになり得たということが言えそうです。

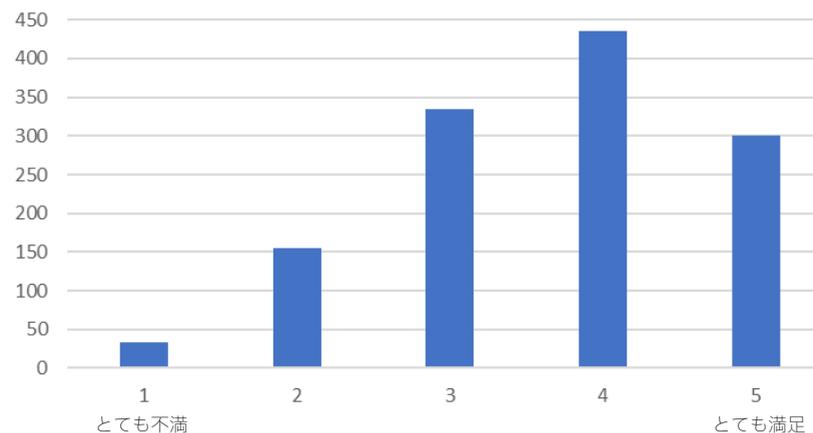


問3 今の自分（置かれている立場）について、満足していますか

※自分自身・家族や友だちとの関係・学校（大学）生活など全て含めて【必須】

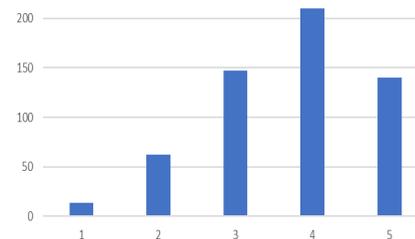
全体

（単位：人）

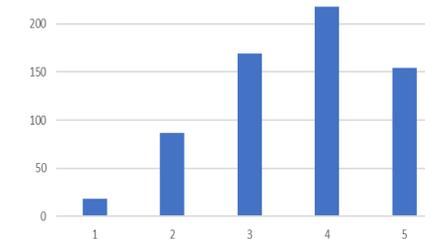


ジェンダー別

男性

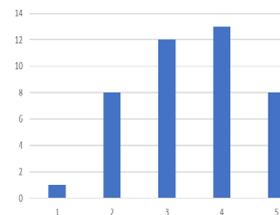


女性

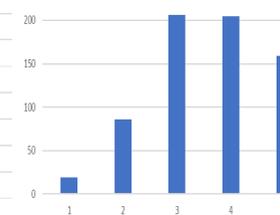


校種別

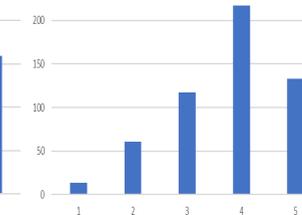
中学生



高校生



大学生



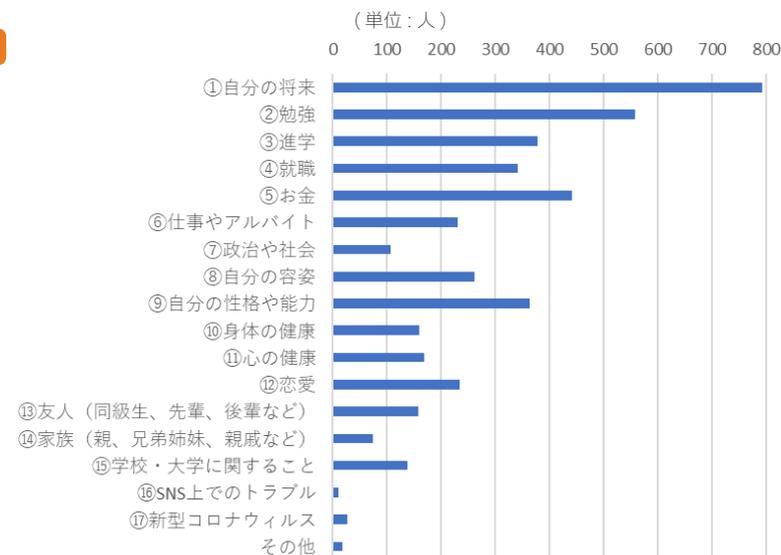
comment!

校種別集計において、特に中学生・高校生の結果から、＜3＞という不満でも満足でもない、どちらともいえないと言い換えられるような真ん中の選択肢を選んだ人が多いことがわかります。将来について考える機会がぐんと増える大学生の間に、自分自身に対する理解度や解像度が上がるのかもしれませんが。

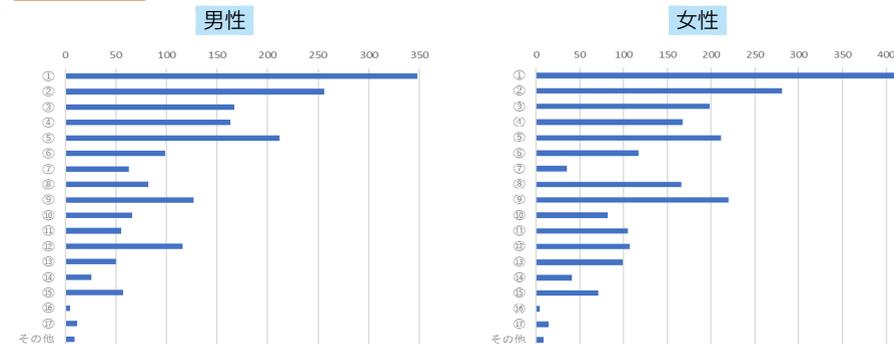
また、全体を通して＜1（とても不満）＞＜2＞が少なく、＜3＞＜4＞＜5（とても満足）＞が多い傾向にあります。これはつまり、今の自分について概ね満足していると答えるユースが多いということであり、決して悪い結果ではありません。ですが、[はじめに]で述べたヒアリングの際にも『満足している』と言いながらよくよく聞くと薬を飲んでいる人もいる』という指摘もあり、この問だけでユース一人ひとりの豊かさまでをも測ることはできないこと、こうしたアンケートにおいてもなお表面化しにくい声があることには留意が必要です。

問4 最近困っていること・悩んでいることはどんなことですか【複数選択可】【必須】

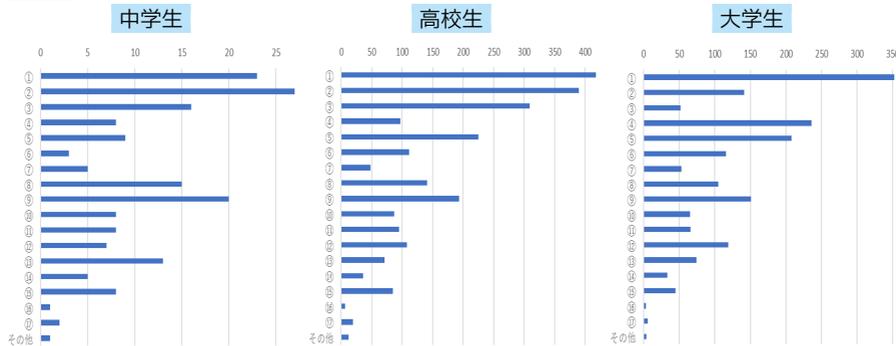
全体



ジェンダー別



校種別



<その他>の回答例

- ・部活（女性・高校生）
- ・免許取得（男性・大学生）
- ・卒業までの暇な時間に何をするか（男性・大学生）
- ・自分の生活習慣（男性・高校生）
- ・人との関わり方（男性・大学生）

comment!

全体を通して、<④自分の将来>が比較的高いという結果になりました。

ジェンダー別集計において男性・女性の結果を見比べてみると、女性の<⑦政治や社会>の数値の低さ、<⑧自分の容姿>、<⑨自分の性格や能力>の数値の高さが目立ちます。<⑦>の低さの要因として、政治や社会への関心の低さということもあるかもしれません。しかしそれだけでなく、自分の困りごとは政治や社会ではなく自分の問題だと思っている、自己責任だと考えているという可能性も否定できないのではないのでしょうか。また<⑧>の高さに関しては、やはり女性の方がルッキズム（外見至上主義）的社会的圧力を受けやすいこと、それが日本社会において、ユース世代にもまだ根深く残ってしまっているということが伺えます。こうしたことと<⑨>の低さから、特に女性のユースの自己肯定感の低さが懸念されます。

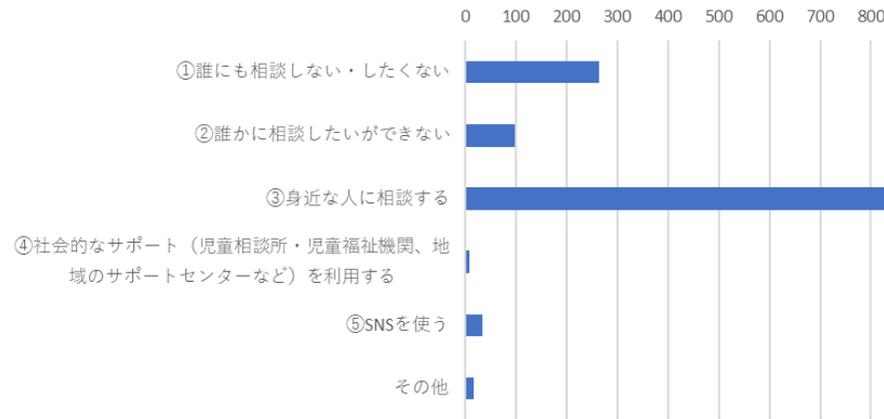
校種別に目を向けると、中学生の<⑧>、<⑨>の数値の高さが見て取れます。いわゆる「思春期」になり、どうしても自分と他者とを比較しがちになってしまう中で、このような自分自身に関する悩みの数値が高くなったと言えるかもしれません。



問 4-1 困っていること・悩んでいることがある時、主にどう対応しますか【必須】

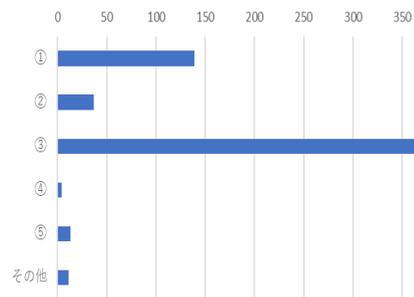
全体

(単位:人)

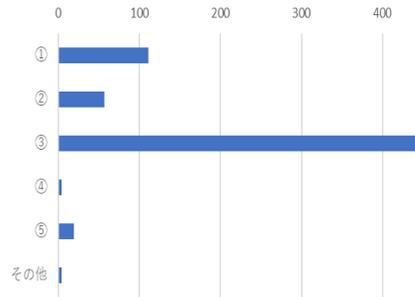


ジェンダー別

男性

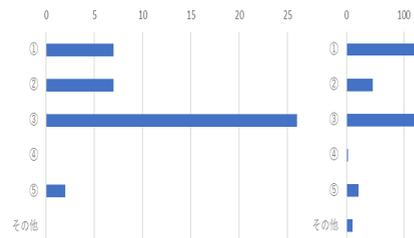


女性

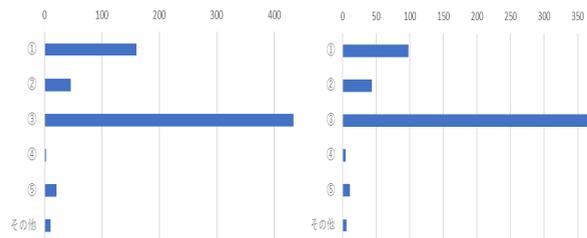


校種別

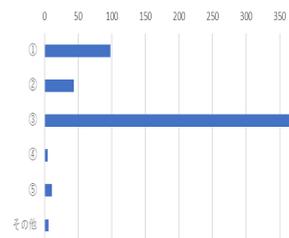
中学生



高校生



大学生



<その他>の回答例

- ・しばらくしたら忘れる（男性・大学生）
- ・自分で考える（男性・高校生）
- ・悩みがあまりない（回答しない・高校生）
- ・特に何もしない（女性・高校生）
- ・その物事について調べる（女性・高校生）
- ・お金を稼ぐ（男性・大学生）
- ・相談することもあるししないこともあります（男性・大学生）

comment!

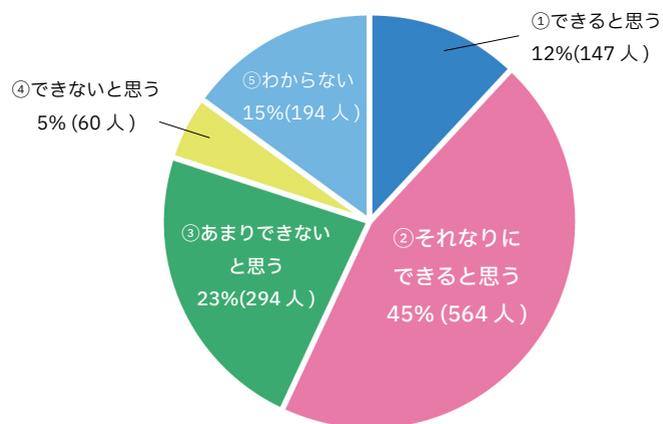
すべての結果において、<④社会的なサポート（児童相談所・児童福祉機関、地域のサポートセンターなど）を利用する>がほとんど選ばれていないことがわかります。当然悩みの内容にもよりますが、専門性のある人・機関を頼るという選択肢の認知度を上げる努力が必要かもしれません。

またジェンダー別集計を見ると、<①誰にも相談しない・したくない>を選んでいる男性が比較的多いことがわかります。「弱さを見せられない」といった、いわゆる「男性の生きづらさ」が要因となっている可能性が考えられます。

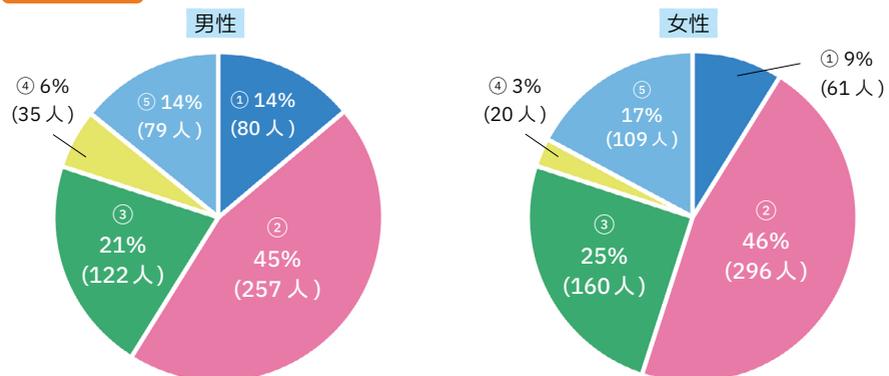


問 5 社会に出てから、自分の望む生き方ができると思いますか【必須】

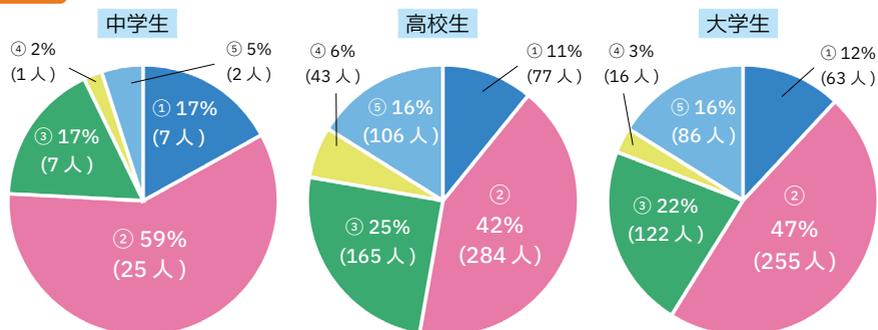
全体



ジェンダー別



校種別



問 5-1 その理由は何ですか

問 5 で < 1 > を選択した人の回答例

- ・自信があるから (回答しない・高校生)
- ・望む生き方ができるように努力しているから (男性・高校生)
- ・大人はとても楽しそうで、自分を持っている人が多くいるから (女性・中学生)
- ・今までなんとなく出来てきたから (男性・大学生)

問 5 で < 2 > を選択した人の回答例

- ・なんとなくだが進みたい方向性は定まっているから (男性・高校生)
- ・バイトしていてあまり困ったことがないから社会に出てもやっていけそう (女性・高校生)
- ・望みが低い (男性・大学生)

問 5 で < 3 > を選択した人の回答例

- ・やりたい事がしたかったらそれだけ頑張らないといけないと思うから (女性・高校生)
- ・思いどおりにならないことが多いから (女性・高校生)
- ・望んだ会社に就職できるとは限らないから (男性・大学生)

問 5 で < 4 > を選択した人の回答例

- ・世の中は簡単じゃない (回答しない・高校生)
- ・怖いから (男性・高校生)
- ・日本政治の腐敗 (男性・高校生)
- ・能力もないしそんな社会でもない (男性・大学生)

問 5 で < 5 > を選択した人の回答例

- ・どのような仕事につき、どのような生活をしているのか検討がつかないため (女性・大学生)
- ・現在の社会は非常に流動的であるため、不透明 (男性・大学生)
- ・自分の将来像が固まっていないため (男性・大学生)

comment!

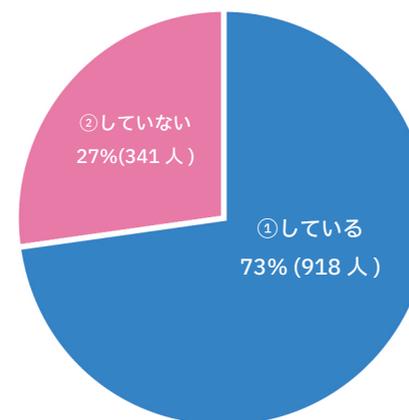
ジェンダー別集計結果における男女の差はあまり大きくない一方で、校種別では中学と高校・大学との間の差がかなり大きく開く結果となりました。<①できると思う>、<②それなりにできると思う>の合計値が、中高大の順に76% → 53% → 59%と変化しています。中学から高校に進学し、自分自身が社会に出てからのことが少しずつ現実味を帯びてくる中で、不安を感じたり、自信をなくしたりする人が多くなっていくと考えられます。



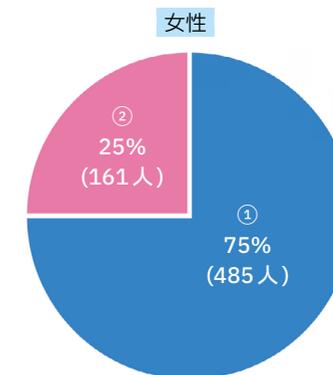
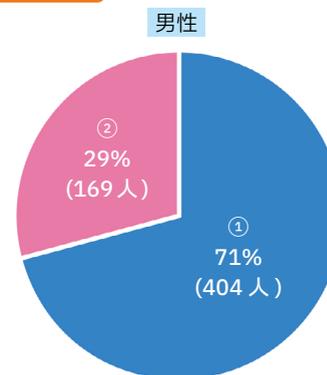
社会・世界編

問6 何か人・社会の役に立つことや、環境によいことをしていますか
※どんな小さなことでも構いません【必須】

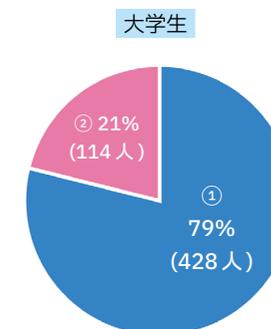
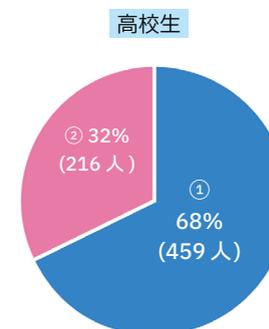
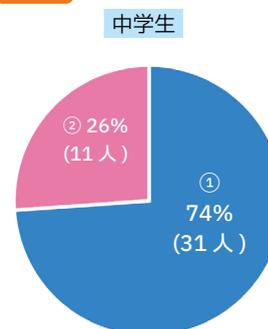
全体



ジェンダー別



校種別



【問6】で<①している>を選んだ人のみ

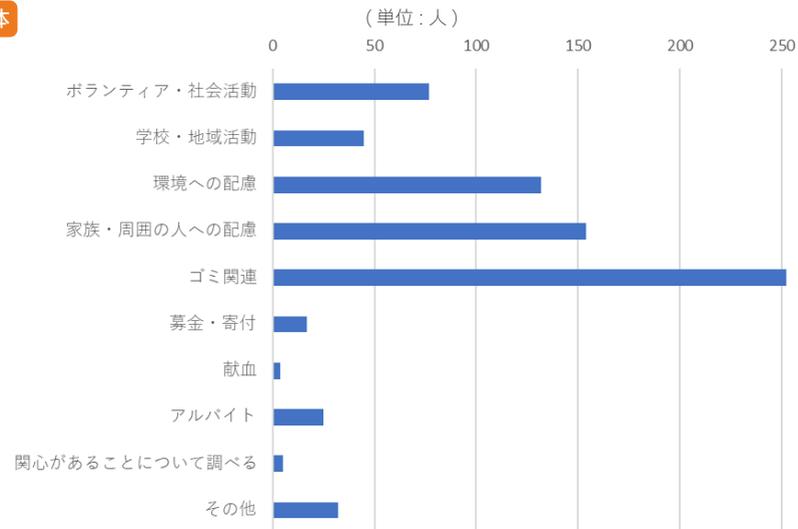
問6-1 どのようなことをしていますか（人・社会の役に立つことや、環境によいことについて）

問6-1(1) それを始めたきっかけは何ですか

回答例 ※以下、【】内は【問6-1(1) それを始めたきっかけは何ですか】の回答内容

- ・人助ける【自分がされたらうれしいから】（女性・高校生）
- ・ゴミを分別して捨てる【親がやっていたから】（男性・高校生）
- ・ボランティア【学校の部活】（回答しない・高校生）
- ・ひとを大切にする【自分にいつか返ってくるから】（男性・大学生）
- ・相手のことを考えてコミュニケーションを取っている【相手に気まづくさせてしまったことがあるから】（女性・高校生）
- ・節電 節水【環境保全に興味を持ち始めたから】（男性・大学生）
- ・エアコンの温度を下げすぎない【地球温暖化防止のため】（女性・大学生）
- ・友達の悩みを聞く【友達が悩み出したから】（女性・高校生）
- ・こども園へのボランティア【子どもと関わるのが好きだから】（女性・高校生）
- ・募金【あったから】（女性・中学生）

全体



※【問6-1 どのようなことをしていますか（人・社会の役に立つことや、環境によいことについて）】の自由記述回答の内容を執筆者の判断で分類し、グラフ化しています。

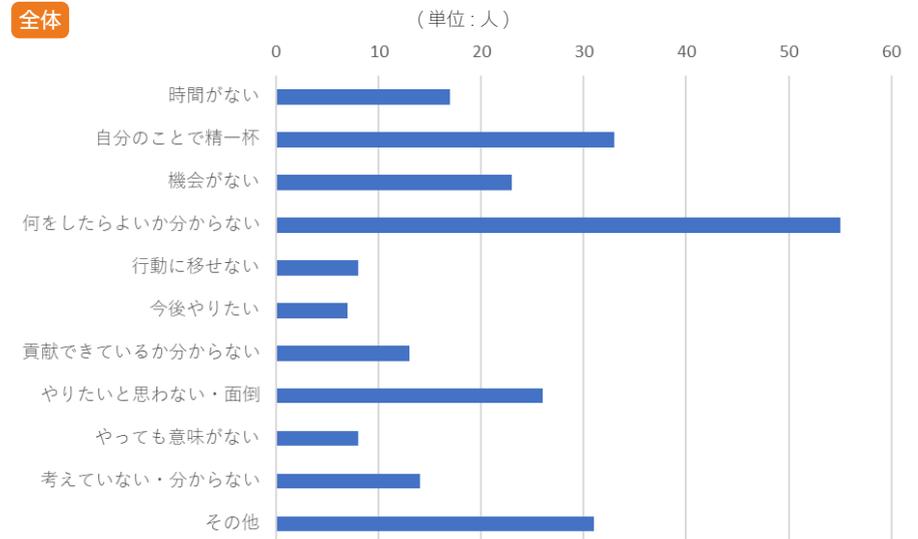
【問6】で<②していない>を選んだ人のみ

問6-2（人・社会の役に立つことや、環境によいことをしていない）その理由は何ですか

回答例

- ・何をしたらいいのかわからないから（女性・高校生）
- ・する時間がない（女性・高校生）
- ・自分のためにしていることがおおいから（女性・大学生）
- ・することが身近にない（男性・高校生）
- ・自分のことで精一杯だから（女性・高校生）
- ・思いつかない（女性・高校生）
- ・なにが環境にいいかわからない（男性・高校生）
- ・人間は生きてるだけで環境を破壊しているから（男性・高校生）
- ・めんどくさく感じるから（男性・高校生）
- ・良いことをしてるかわからない（男性・中学生）

全体



※【問6-2（人・社会の役に立つことや、環境によいことをしていない）その理由は何ですか】の自由記述回答の内容を執筆者の判断で分類し、グラフ化しています。

comment!

全集計結果を通して大きな差が出ませんでした。中でも大学生の結果においては、他と比べて<①している>の数値が特に高くなりました。

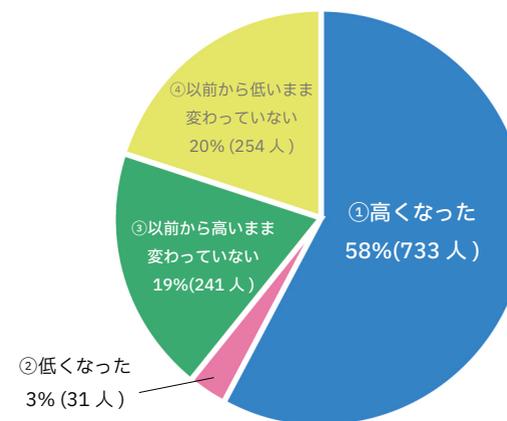
始めたきっかけに目を向けてみると、身近なことをきっかけとした身近な取り組みが多いようです。一方<②していない>の理由としては、「何をしたらよいか分からない」、「自分のことで精一杯」という人が多い他、諦めともらえるような回答もありました。

前回のアンケート『中高大学生を対象としたSDGs意識調査アンケート調査結果報告書2021』の第一部【問4-2 SDGs達成のために現在取り組んでいることがありますか】の結果では、<①取り組んでいることがある>と答えた人は全体の33%でした。今回は敢えて聞き方を変え、さらに「※どんな小さなことでも構いません」と注を入れたところ、<①している>と答えた人が2倍余りに増えたものの、それでも20~30%の人が<②していない>を選択しています。

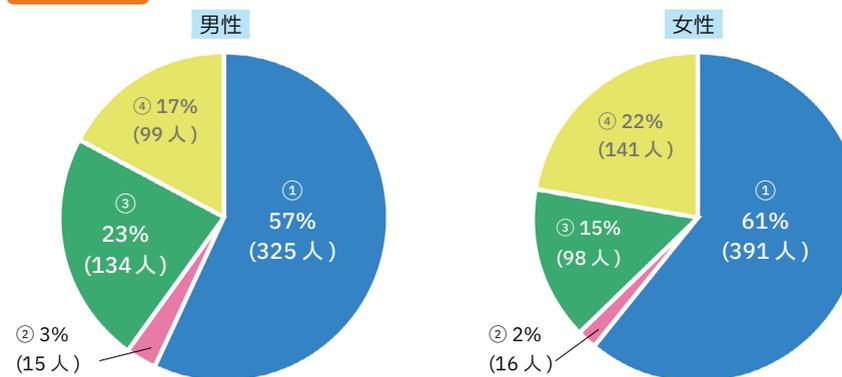


問7 新型コロナウイルス感染症の流行をへて、社会・世界の出来事への関心の高さは変化しましたか【必須】

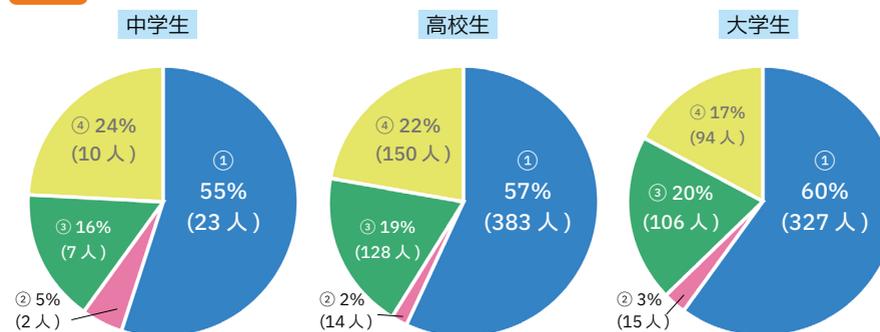
全体



ジェンダー別



校種別



問 7-1 その理由は何ですか

問 7 で < 1 > を選択した人の回答例

- ・いろんなことが変わったから（女性・高校生）
- ・はなしついていけなくなる（男性・高校生）
- ・世界で起きていることがコロナで日本に影響することを知ったから（男性・高校生）
- ・今の社会の現状を为了能にニュースなどを見るようになった（女性・中学生）

問 7 で < 2 > を選択した人の回答例

- ・政治家達の対応力（女性・中学生）
- ・いちいち変動する世の中を追うことに疲れた（男性・大学生）
- ・マイナスな気持ちになるニュースが多く、逆に何も知りたくないと思うようになってしまったからです（女性・大学生）
- ・コロナ期間は自分や自分の周りのことで精一杯だったから（女性・大学生）
- ・前よりは減ってるから（男性・中学生）

問 7 で < 3 > を選択した人の回答例

- ・新聞を日常的に読んでおり、政治に関心があるから（男性・中学生）
- ・自分にコロナの影響は特になかったから（男性・高校生）
- ・今のままでも十分に高いから変えることがない（男性・高校生）
- ・元々時事に興味があったから（男性・大学生）

問 7 で < 4 > を選択した人の回答例

- ・特に自分に変化がないため（女性・大学生）
- ・以前からそこまでニュースに関心を持っていなくて、コロナの流行を経て特別に関心を持つようになったわけではない（女性・大学生）
- ・遠いことのようにしか感じられない。自分の周りのことで手一杯です（男性・大学生）
- ・自分が何か変えられると思っていないから（女性・高校生）
- ・新型コロナウイルスが流行ったことによって、国際社会に目を向けよう、とは思わなかったから（男性・大学生）

comment!

【はじめに】で述べていたように、「2023年度の今しか得られない回答・声」を拾おうと設けた問の一つです。

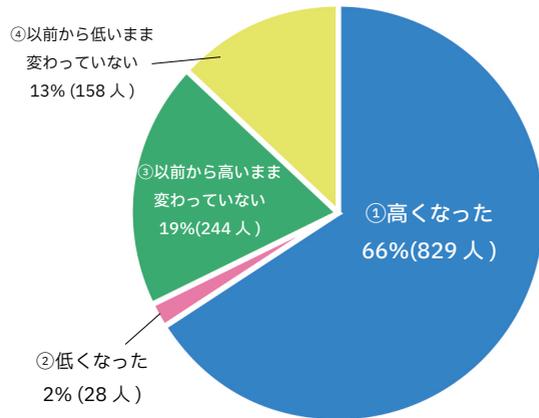
全体・ジェンダー別・校種別すべての集計において、お互いにかなり似通った結果となりました。やはり<①高くなった>が最も多く、<③以前から高いまま変わっていない>と<④以前から低いまま変わっていない>の合計よりも高い数値を示しています。

また【問 6-2（人・社会の役に立つことや、環境によいことをしていない）その理由は何ですか】と同様、【問 7-1】でも、<②低くなった>や<④以前から低いまま変わっていない>を選択した理由として「自分のことで精一杯」というような内容のものが見られます。



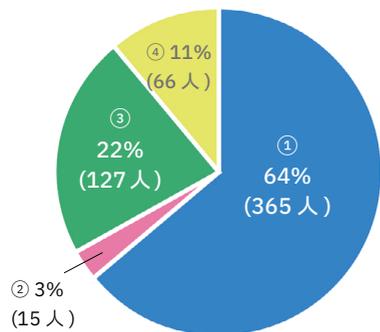
問 8 ロシアによるウクライナへの軍事侵攻によって、平和への関心の高さは変化しましたか【必須】

全体

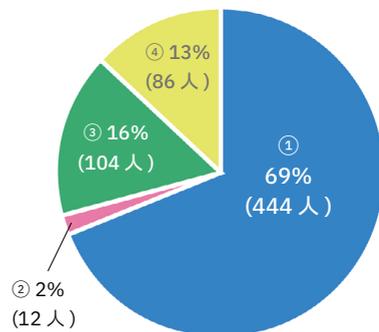


ジェンダー別

男性

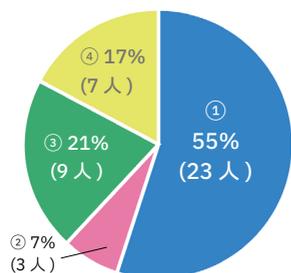


女性

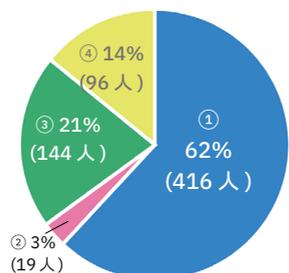


校種別

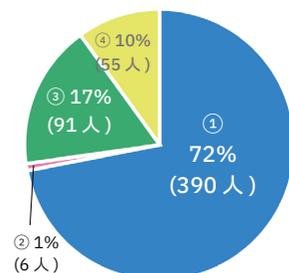
中学生



高校生



大学生



問 8-1 その理由は何ですか

問 8 で < 1 > を選択した人の回答例

- ・ウクライナの方々が大変そうだから（女性・中学生）
- ・大勢の命が動くような出来事を見て、平和について考える機会だと感じたから（男性・大学生）
- ・教科書上でしか学んでこなかった戦争が実際にあることを知ったから（その他・大学生）
- ・戦争が身近に感じられたから（女性・大学生）

問 8 で < 2 > を選択した人の回答例

- ・資源や食べ物が高くなってこれからは心配（男性・高校生）
- ・他人事として見てしまっている（男性・高校生）
- ・始まってから時間が長くなってきて、ニュースで報道される量が減ったから（女性・高校生）
- ・戦争でいろんな人が死んでるから（男性・中学生）
- ・平和が達成可能ではないことに気づいたから（男性・大学生）

問 8 で < 3 > を選択した人の回答例

- ・小学校の時から平和について学ぶ機会が多かったから（女性・高校生）
- ・日本がいつかそうならないとは限らないと思ったから（女性・高校生）
- ・次の世代が困るから（回答しない・高校生）
- ・戦争は良くないから（男性・高校生）
- ・死にたくないから（男性・高校生）

問 8 で < 4 > を選択した人の回答例

- ・日本の事じゃないからとあまり気にしていなかったから（女性・高校生）
- ・自分の周りで精一杯で周りに関心を配る余裕が無いから（男性・高校生）
- ・自分には関係ない（男性・中学生）
- ・平和が常にあるものではない、という意識が強いから（男性・大学生）
- ・あまり現実味がないため（男性・大学生）

comment!

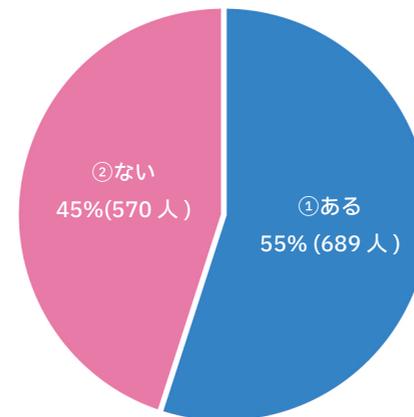
こちらも【問7 新型コロナウイルス感染症の流行をへて、社会・世界の出来事への関心の高さは変化しましたか】と同様、「2023年度の今しか得られない回答・声」を拾おうと設けた問の一つです。

【問7】と同様全集計が概ね似通った結果となりましたが、校種別の大学生は<①高くなった>の回答割合が他より特に高く、唯一70%を超えています。コロナウイルスの問題が、程度の差こそあれ誰にとっても身近であった一方で、ウクライナ情勢は国際社会の問題でもあり、個々人の関心の高さに左右されやすい、つまり個人差が出やすいものだと言えるのではないのでしょうか。そしてそうした国際情勢への関心は、学びの幅が広がったり、就職活動などの開始に伴って社会への関心の幅が広がったりする大学生の時期において、高まりやすいものなのかもしれません。



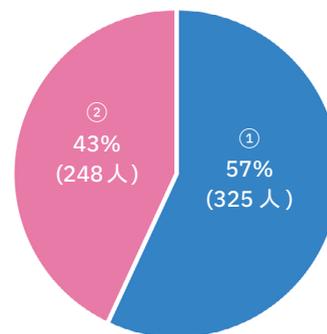
問9 新型コロナウイルス感染症・ウクライナ情勢以外で、関心のある社会・世界の問題はありますか【必須】

全体

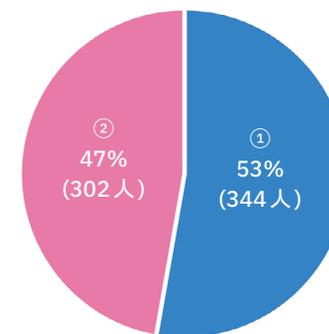


ジェンダー別

男性

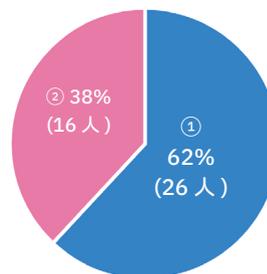


女性

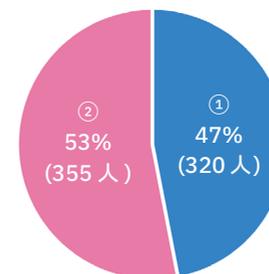


校種別

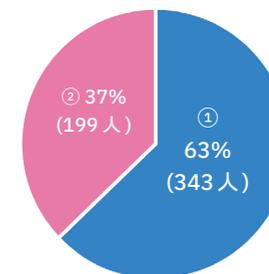
中学生



高校生



大学生



【問9】で<④ある>を選んだ人のみ

問9-1 新型コロナウイルス感染症・ウクライナ情勢以外で、関心のある社会・世界の問題は何ですか

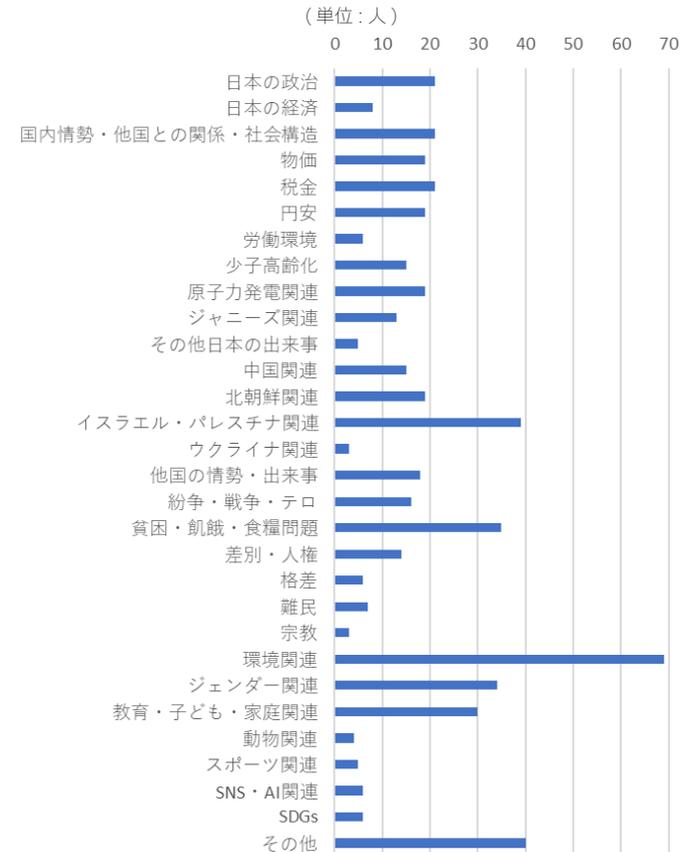
問9-1(1) その問題の責任は誰(どこ)にあると思いますか

【回答例】 ※以下、【】内は【問9-1(1) その問題の責任は誰(どこ)にあると思いますか】の回答内容

- ・教育格差【全員】(女性・大学生)
- ・ジェンダーと生理【みんな】(回答しない・大学生)
- ・不登校問題【家族、行政】(女性・大学生)
- ・東南アジア地域の女性や子供の労働問題【工場を多く建て、労働を強いる大企業たち】(男性・大学生)
- ・環境問題【皆んな】(男性・大学生)
- ・農村と都市の経済格差【賃金の差】(女性・大学生)
- ・日本が戦争をするのか【日本国民】(男性・高校生)
- ・ソーシャルメディアの動向【事業者と、国家】(男性・大学生)
- ・日本で子育てしにくいという問題【全て何かしら関わっていると思います】(男性・大学生)
- ・OpenAIの活用【どこにもない】(男性・大学生)
- ・イスラエル・ハマスの紛争【ハッキリとは分からない】(男性・大学生)
- ・物価、税金【国、政府】(女性・高校生)
- ・ジャニーズ【隠蔽している人たち】(女性・高校生)



全体



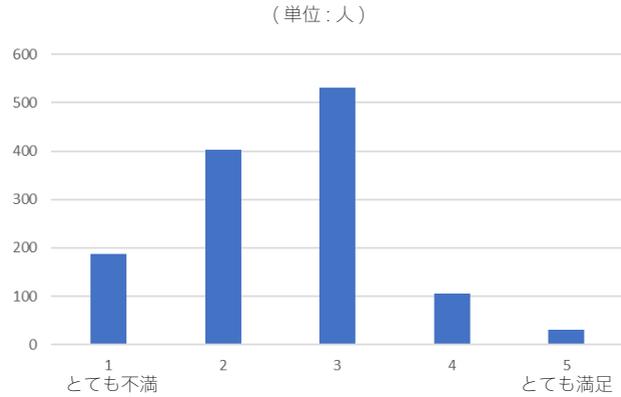
※【問9-1 新型コロナウイルス感染症・ウクライナ情勢以外で、関心のある社会・世界の問題は何ですか】の自由記述回答の内容を執筆者の判断で分類し、グラフ化しています。

comment!

【問7 新型コロナウイルス感染症の流行をへて、社会・世界の出来事への関心の高さは変化しましたか】で<②低くなった>、<④以前から低いまま変わっていない>をそれぞれ選択した人の割合の合計が23%、【問8 ロシアによるウクライナへの軍事侵攻によって、平和への関心の高さは変化しましたか】で<②低くなった>、<④以前から低いまま変わっていない>をそれぞれ選択した人の割合の合計が15%であったことと、今回の全体集計において45%の人が<②ない>を選択していることを考え合わせると、やはりユース世代の社会・世界に対する関心の低さは、日本社会の課題であるということが再確認されたと言えます。

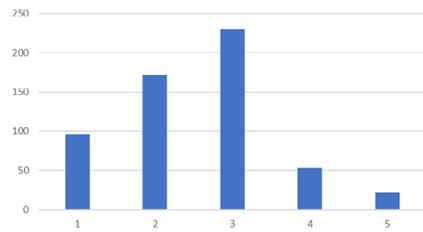
問 10 今の日本の大人・社会について、どう感じていますか。正直な気持ちをお聞かせください【必須】

全体

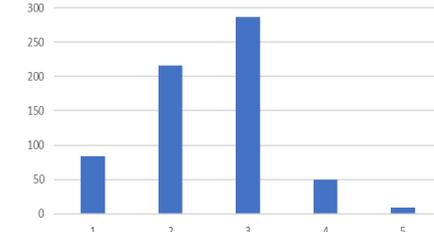


ジェンダー別

男性

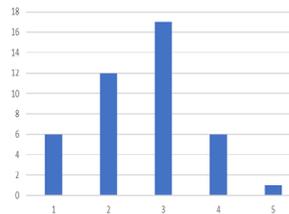


女性

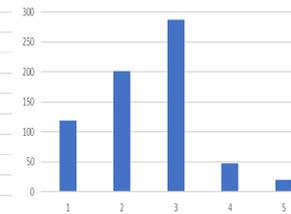


校種別

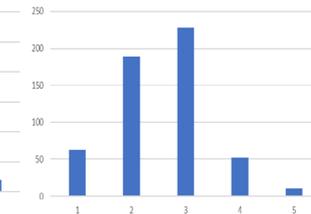
中学生



高校生



大学生

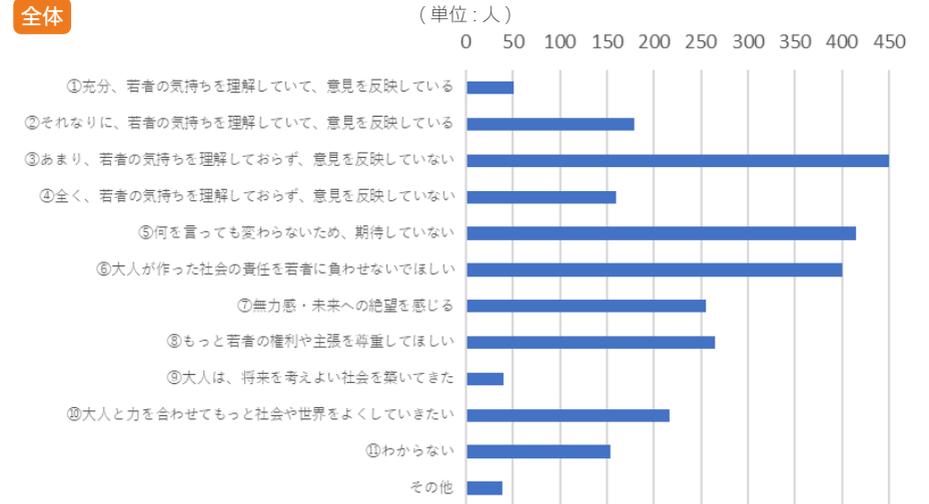


comment!

全集計が、それぞれにかなり似通った結果となりました。＜3＞が最も多いものの、＜4＞＜5（とても満足）＞は比較的少なく、それよりも＜1（とても不満）＞＜2＞の方がずっと大きな数値を示しています。

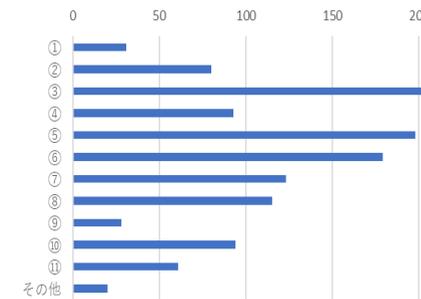
問 10-1 今の日本の大人・社会について、ご自身の気持ちに近いものを選択してください【複数選択可】【必須】

全体

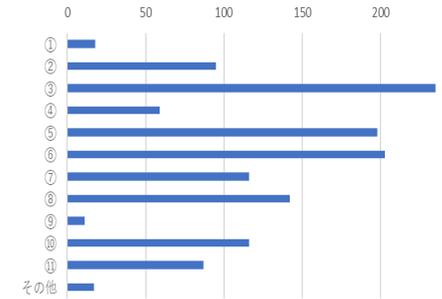


ジェンダー別

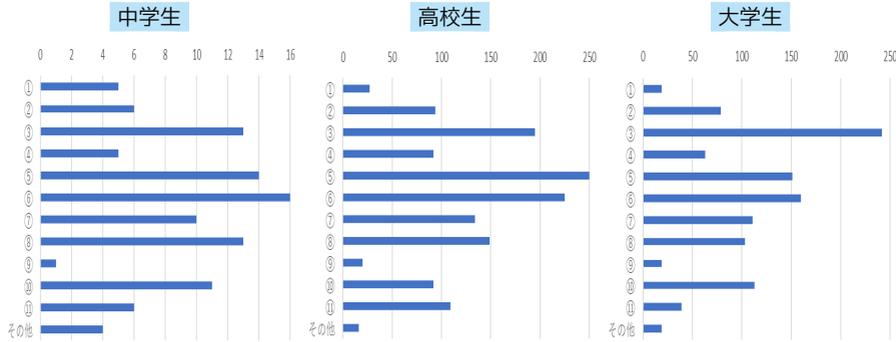
男性



女性



校種別



<その他>の回答例

- ・日本特有の集団の圧力を感じる（男性・大学生）
- ・正直日本はこれから良くなれないと思ってしまう（女性・大学生）
- ・若者の意見を取り入れてるようで外れなことをしている感じがする（その他・高校生）
- ・政治関係の人が自分勝手すぎる（男性・高校生）
- ・政治の人は自分の名誉だけを気にして仕事してる（回答しない・高校生）
- ・若者も政治に対しての関心がなさすぎる。だから変わらない。誰かが悪いじゃなくてみんな悪い気がする（女性・高校生）
- ・自分たち若者が考えないといけない（男性・大学生）
- ・もっと自分と違う人や他人を受け入れて、認め合える社会になってほしい（男性・高校生）
- ・医療従事者に対する待遇が悪すぎる（男性・高校生）
- ・可もなく不可もない（女性・高校生）
- ・人によると思う（女性・中学生）
- ・興味がない（男性・大学生）

comment!

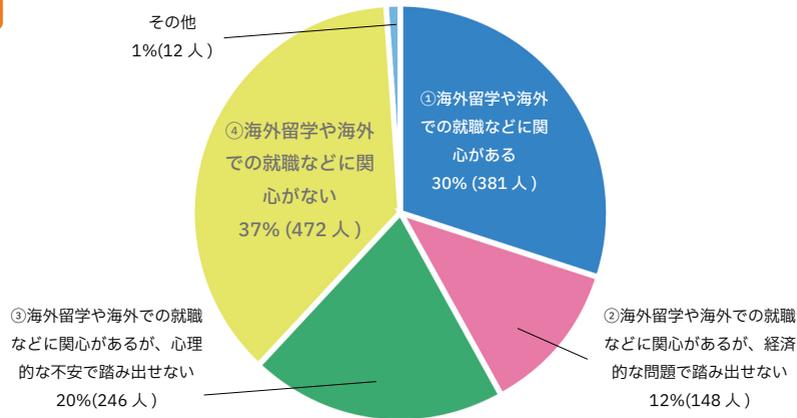
全体を通して、<その他>を除いて<⑨大人は、将来を考えよい社会を築いてきた>が最も少ない数値を示す結果となりました。これは大人世代としては、色々と考えさせられるものがあるのではないのでしょうか。他、<⑤何を言っても変わらないため、期待していない>もかなり大きな数値を示しており、ユースにこのような諦めとも言うべき考えを持たせてしまっている大人の責任は重いと感じます。

校種別に目を向けると、中学生は<⑥大人が作った社会の責任を若者に負わせないでほしい>、高校生は<⑤何を言っても変わらないため、期待していない>、大学生は<③あまり、若者の気持ちを理解しておらず、意見を反映していない>がそれぞれ最も多いという結果となっています。



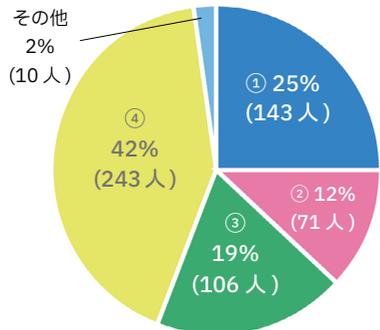
問 11 海外志向について、ご自身の考えに最も近いものを選択してください【必須】

全体

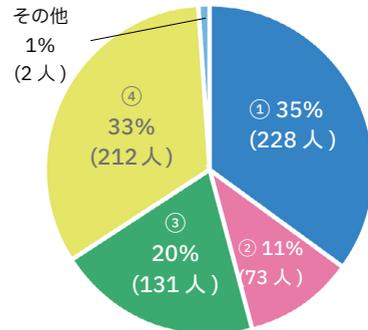


ジェンダー別

男性

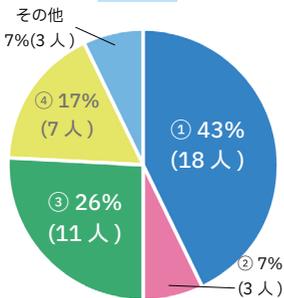


女性

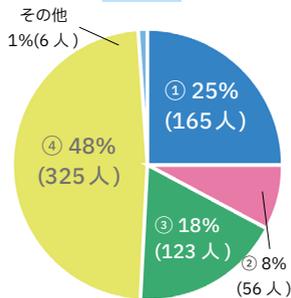


校種別

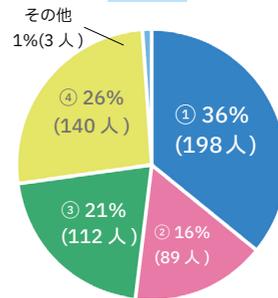
中学生



高校生



大学生



<その他>の回答例

- ・観光で海外へ行ってみたく強く思うが、留学などには関心が無い (男性・高校生)
- ・よく分からない (男性・中学生)
- ・お金がない (男性・大学生)
- ・にほんがすき (男性・高校生)
- ・海外留学をしたことがあるが、海外就職は考えていない (女性・高校生)
- ・海外留学に関心があるけどもう遅い (女性・高校生)
- ・私は外国から日本へ留学した (男性・大学生)
- ・そこまで関心はない (男性・大学生)

問 11-1 具体的な理由は何ですか

問 11 で<①海外留学や海外での就職などに関心がある>を選択した人の回答例

- ・今の日本よりも海外で活動した方が働きやすいため (男性・高校生)
- ・国際問題に興味があり、そのような問題を解決できるような職に就きたいから (女性・大学生)
- ・海外は日本とどのような文化の違いがあるか興味があるから (女性・中学生)
- ・海外での経験は自分の見聞を広げることに繋がるから (男性・大学生)

問 11 で<②海外留学や海外での就職などに関心があるが、経済的な問題で踏み出せない>を選択した人の回答例

- ・他にもやりたいことがあるので留学にお金をすべて使うことは出来ないから (男性・大学生)
- ・世界に飛び出して、多様な価値観に触れたいと思うが、費用面での問題と、自分の能力面の問題があるから (女性・大学生)
- ・お金が高い (男性・大学生)
- ・兄弟が沢山いて金銭的に余裕がない。もっと支援をしてほしい。大学生までは授業料なども全て無償にするべき (女性・高校生)

問 11 で<③海外留学や海外での就職などに関心があるが、心理的な不安で踏み出せない>を選択した人の回答例

- ・英語が苦手だから（女性・高校生）
- ・海外はあまり日本ほど治安は良くないし、ほとんど行ったことのない私は不安でしかないからです（女性・中学生）
- ・1人で行くのが怖い（女性・大学生）
- ・失敗した時の不安（女性・大学生）

問 11 で<④海外留学や海外での就職などに関心がない>を選択した人の回答例

- ・日本を変えたい（男性・高校生）
- ・日本のことすらよく知らないから海外なんてもっと分からない（女性・高校生）
- ・日本は海外に比べて安全であり、海外に踏み出すのが怖いから（男性・大学生）
- ・日本で働いて日本で暮らしたいから（女性・高校生）

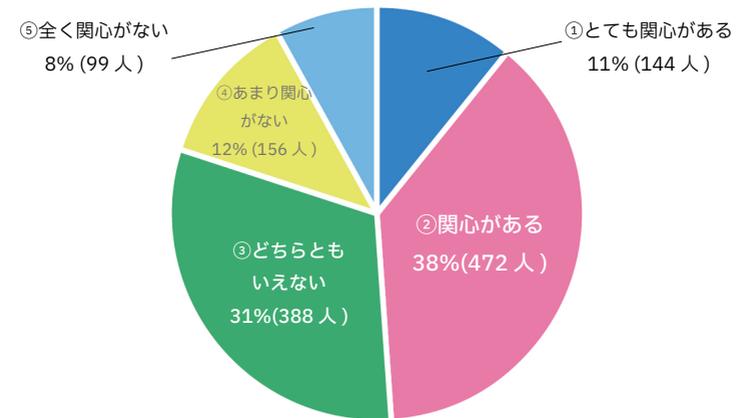
comment!

コロナ禍で海外への渡航等が制限された期間が長かった中で、ユース世代の海外への関心が薄まってきているのではないかという疑念が聞かれることが増えたことから、この問を設けました。経年変化を見られるわけではないため、実際コロナ禍を経ての変化としてどうだったかはこの結果から推測することは難しいですが、<①海外留学や海外での就職などに関心がある>、<②海外留学や海外での就職などに関心があるが、経済的な問題で踏み出せない>、<③海外留学や海外での就職などに関心があるが、心理的な不安で踏み出せない>の合計が62%と半数を超えていることから、ユースの海外への関心は低いというわけではなさそうです。

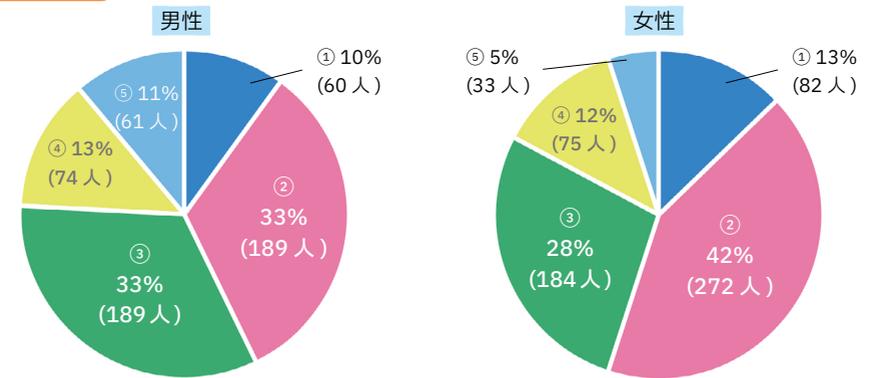
SDGs 編

問 12 SDGs に関心がありますか【必須】

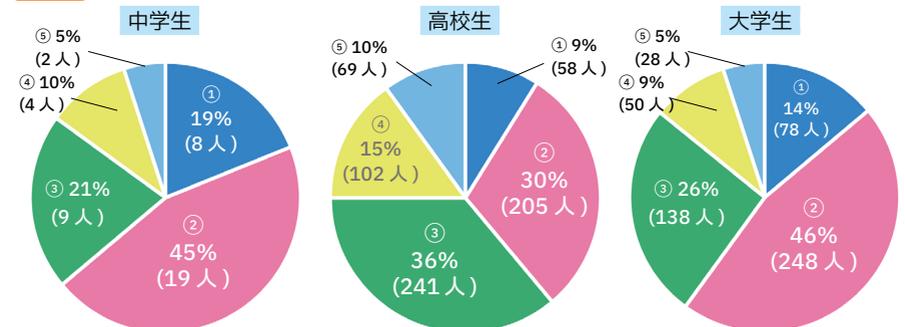
全体



ジェンダー別



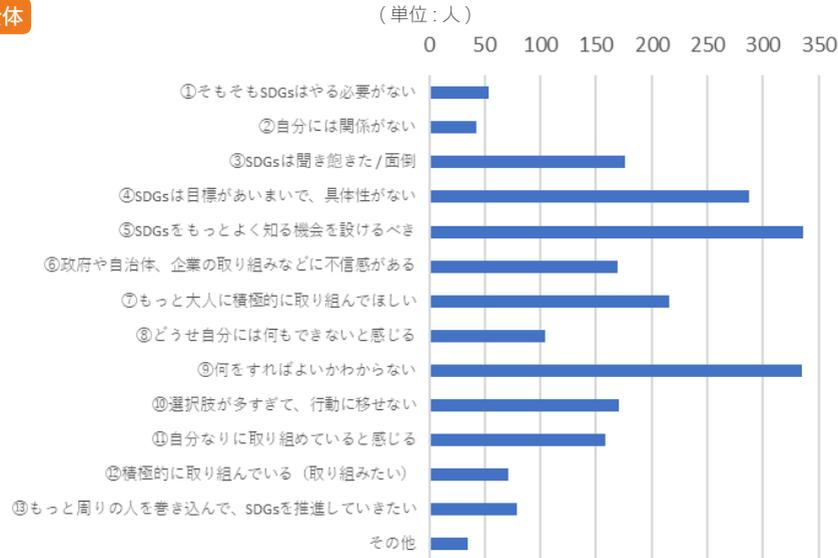
校種別



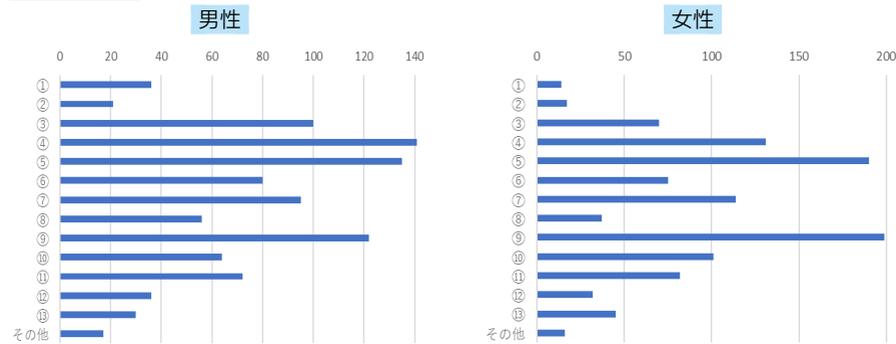
問 12-1 SDGs について、ご自身の考えに近いものを選択してください

【複数選択可】【必須】

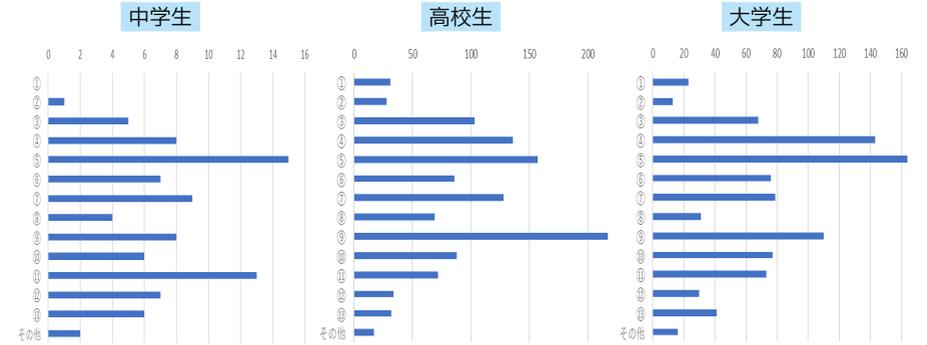
全体



ジェンダー別



校種別



<その他>の回答例

- ・何かしたところで実感が湧かない(女性・大学生)
- ・SDGsという言葉ばかりが先行し、実際の行動はあまり変わっていないように感じる(その他・大学生)
- ・まるで押し付けられるかのように、過剰にSDGsが主張されるため、大事なことは分かっているが、乗り気になれない(男性・高校生)
- ・現実的では無い部分が多すぎる(男性・大学生)
- ・不可能な達成目標(男性・大学生)
- ・思想自体は肯定するが、利権が絡んでいて気味が悪い(男性・大学生)
- ・SDGsがきちんとした理解を持って、認識されるものはするべきだが、飾りとしてバッジをつけている人はどうかと思う(女性・大学生)
- ・人間のエゴ(男性・高校生)
- ・学校の授業で取り組んだが、生徒も先生も、授業以外では非協力的(女性・高校生)
- ・せっかく目標を掲げているなら、達成できるような努力をもっとしっかりやるべき(女性・高校生)
- ・行動が進むきっかけになっていると感じる(女性・大学生)
- ・あまり知らない(女性・高校生)
- ・特に何も考えていない(女性・高校生)

comment!

まず【問 12 SDGs に関心がありますか】について、全体集計において、＜①とても関心がある＞、＜②関心がある＞の合計が 49%と約半数を占める結果となりました。ジェンダー別集計では、＜①＞、＜②＞の合計が 55%となった女性の方が、男性に比べて関心が高いという傾向が見られます。また校種別では、中学生と大学生の結果がかなり近く、高校生のみ関心が低い（＜①＞、＜②＞の合計が 39%）という結果となっています。

さらに【問 12-1 SDGs について、ご自身の考えに近いものを選択してください】でより具体的な内容に目を向けてみると、＜⑤ SDGs をもっとよく知る機会を設けるべき＞と＜⑨何をすればよいかわからない＞が多く選択されていることから、ユースにとっての SDGs が「関心はあるが、なかなか詳しい部分まではわかっていない」というようなものになっている現状が推測されます。これは、過去 2 年間の調査と同様の結果とすることができます。

＜その他＞の回答例では、SDGs という言葉の先行や行動・努力が伴っていない現状、利権等への鋭い指摘も見られます。



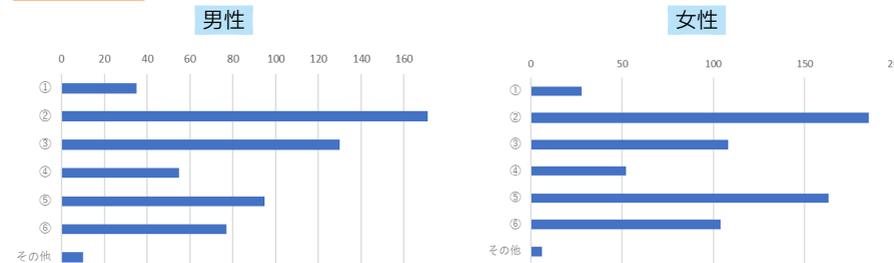
問 13 2030 年の SDGs 達成年限まであと 7 年となったことについて、どのように感じますか。

＜客観的な視点で、ご自身の考えに近いものを選択してください＞【必須】

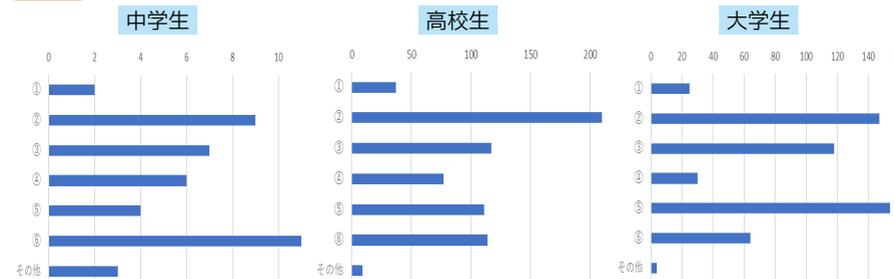
全体



ジェンダー別



校種別



<その他>の回答例

- ・SDGsの目標は現実性がないから達成できない（男性・高校生）
- ・先進国はできても発展途上国はできないと思う（男性・高校生）
- ・いまもなおなにも変わっていない（女性・高校生）
- ・日本のSDGsはビジネスの道具になってしまっている（女性・大学生）
- ・人一人ずつの考え方を変えない限りできないし、守らないといけないとおもわせないとむずかしい（男性・高校生）
- ・完璧に達成しなくても努力を続けていくべきだと思う（女性・大学生）
- ・各国の経済や関係、コロナを始めとしたウイルスなどの蔓延状況次第と思う（女性・高校生）
- ・興味無い（女性・中学生）
- ・どうでもいい（男性・大学生）

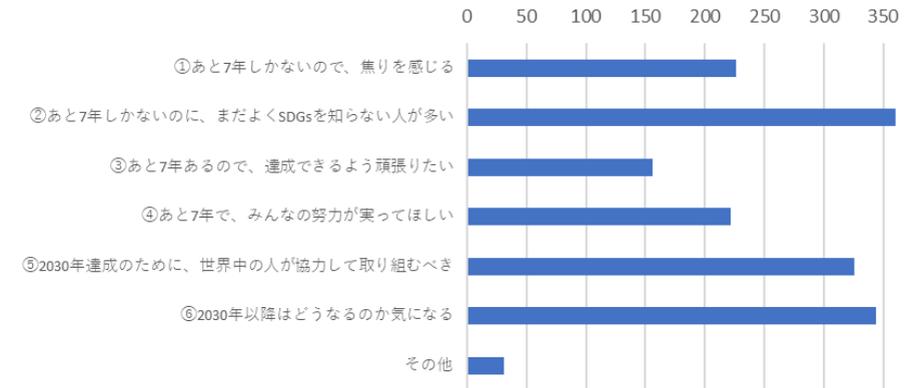


問 13-1 2030年のSDGs達成年限まであと7年となったことについて、どのように感じますか。

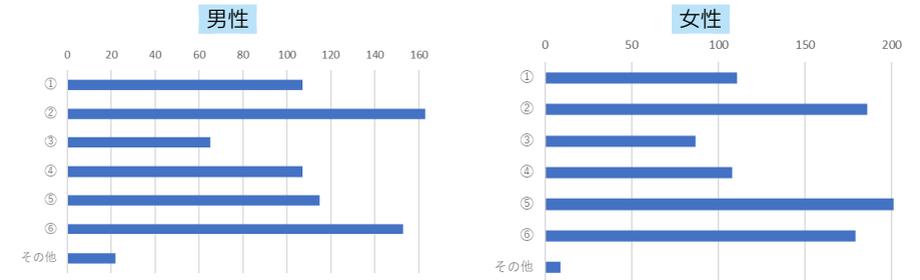
<主観的な視点で、ご自身の考えに近いものを選択してください>【必須】

全体

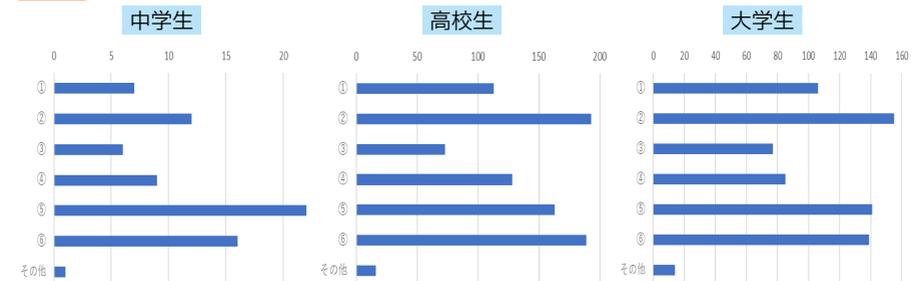
(単位:人)



ジェンダー別



校種別



<その他>の回答例

- ・興味無い（女性・中学生）
- ・特に何も感じない（男性・高校生）
- ・どうでもいい（女性・高校生）
- ・そもそもなぜ2030年までに達成できると思ったのかがわからない（男性・高校生）
- ・そりゃ無理だろうなという諦め。具体性がなさすぎるがゆえの結果（男性・大学生）
- ・ポイ捨てはなくなる（男性・高校生）
- ・あと7年しかないのでミレニアム開発目標の時のようにまた国連が新しい目標を掲げ同じことを繰り返す（女性・大学生）
- ・できる人ができることをサボらずやること（男性・大学生）
- ・あと7年なのに自分も含め全然何もできていないと思う（女性・大学生）
- ・それよりも目の前を気にするべき（女性・大学生）
- ・他の人の7年の感じ方を知りたい（女性・高校生）

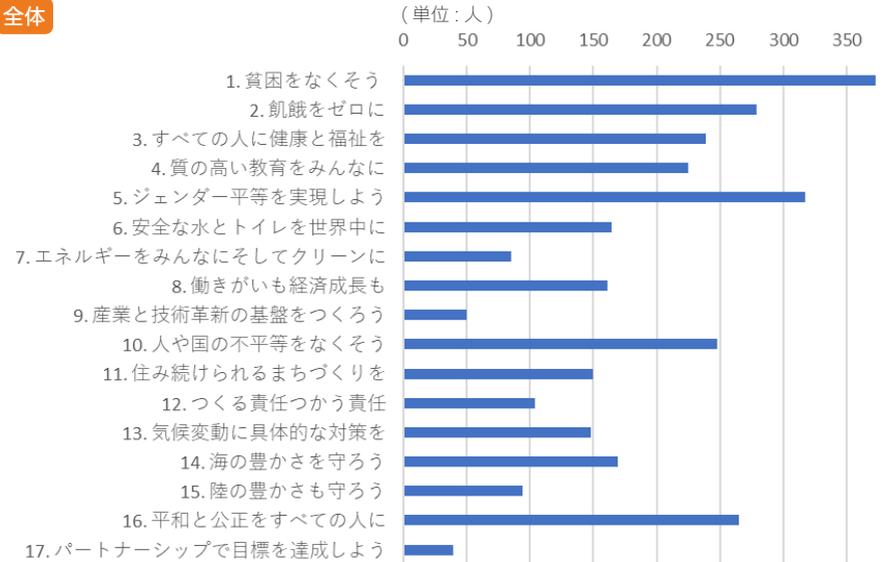
comment!

【はじめに】で述べたヒアリングにおいて、「SDGs 達成まであと7年と言われるが、その7年の感じ方は大人とユースとは全く異なる」という指摘を受けたことから設けた問です。【問13 2030年のSDGs達成年限まであと7年となったことについて、どのように感じますか。〈客観的な視点で、ご自身の考えに近いものを選択してください〉】の回答として②7年後を想像できず、わからない>が最も多かったところに、やはり大人にとってのそれに比べ、ユースにとっての7年は長く感じられるもの、見通せないものであるということが表れていると言えるかもしれません。

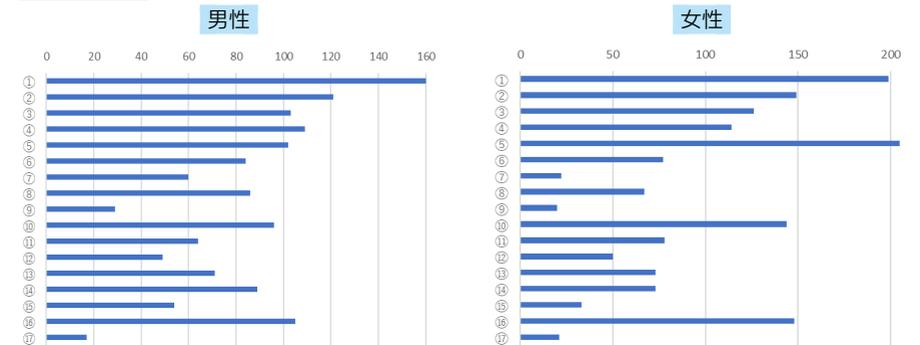
また【問13-1 2030年のSDGs達成年限まであと7年となったことについて、どのように感じますか。〈主観的な視点で、ご自身の考えに近いものを選択してください〉】の<その他>の回答例に「具体性がない」という指摘があること、【問12-1 SDGsについて、ご自身の考えに近いものを選択してください】にて「わからない」「具体性がない」といった言葉を含む回答を選択した人が多かったこと、加えて2021年度のアンケート調査結果、2022年度のヒアリング調査結果の内容を踏まえると、ユースの中にSDGsに対して「具体性に欠けていてよくわからない」という意見を持つ人が一定数存在しているということが言えそうです。SDGsは17のゴールばかりが目立ちますが、実際にはその下に169のターゲット、さらには232の指標（インジケーター）があり、そこでは、場合によっては数値も含めてかなり具体的なものが示されています。それが、中学・高校・大学それぞれでの学びの機会の中ではユースに届いていないということ、メディアや企業等のSDGsの「活用」が表面的なものにとどまってしまうということが言えるのではないのでしょうか。

問14 SDGsの17のゴールのうち、ご自身がより気になるものはどれですか【3つまで選択可】【必須】

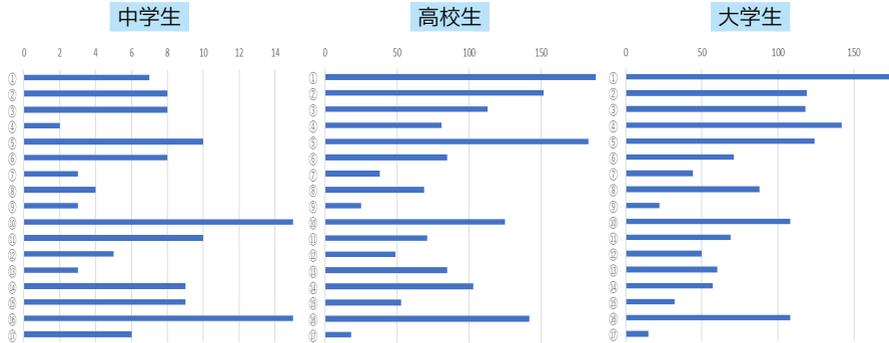
全体



ジェンダー別



校種別



問 14-1 その理由は何ですか ※以下、回答 () 内の数字は、【問 14】で選んだ選択肢を表す

- ・平和は大切とウクライナ問題で思った (男性・大学生・⑬⑭⑰)
- ・発展途上国の子供達の生活や教育の状態に興味があるから (女性・大学生・①②④)
- ・一番世界中に溢れている問題だと思っているから (女性・大学生・①)
- ・地球を長持ちさせる上で特に大事だと思うから (女性・高校生・⑦⑪⑬)
- ・12. 食品ロスがすごい多いと聞いたから。13. 地球温暖化が進んでいるから (男性・高校生・⑫⑬)
- ・教育は国家の維持において大切だから (男性・大学生・④⑫)
- ・働きがいをもとめたい (男性・大学生・⑧)
- ・貧困や教育問題は日本でもあるが、世界では想像できないほど格差があるのではないかと思うから (女性・大学生・①④⑤)
- ・自国だけではなく、世界全体が、地球人として生きているという意識が大切だと考えるから (女性・大学生・③⑥⑦⑩⑪⑬⑰)
- ・自分の学んできたことに関連していて、興味があるから (女性・大学生・③④⑪)
- ・豊かな生活を送りたい (男性・大学生・⑧)
- ・比較的具体的で綺麗事すぎないから (男性・大学生・②⑥⑯)
- ・将来自分が過ごしやすい未来になるか心配だから (男性・大学生・④⑦⑱)
- ・ワークライフバランスが大切だと思うから (女性・大学生・①④⑧)
- ・偏見が多い (女性・高校生・⑤)
- ・身近 (女性・大学生・③⑪⑯)
- ・世界全体規模で、全体が発展していく必要がある。発展途上国を置いてきぼりに

するようなことはよく無い (男性・高校生・⑨)

・少し前にやった英語の長文で海のごみ問題がでていたので (回答しない・高校生・①⑭⑮)

・人間のせいで地球がこんなことになってしまったから (女性・中学生・⑭⑮)

・みんなに健康でいてほしいから (女性・高校生・①②③)

・1 番大事 (男性・高校生・①③⑥)

・そうなって欲しい (男性・高校生・①②⑦)

・直感 (男性・高校生・①③⑩)

・ジェンダー平等や国ごとの不平等はまだまだ解決しきれていない極めて重要でありながら、積極的にとりくめていない内容であるから (男性・中学生・⑤⑩⑰)

・飢餓が気になるから (女性・高校生・①)

comment!

前回のアンケート『中高大学生を対象としたSDGs意識調査アンケート調査結果報告書 2021』第一部の【問 2-2】¹との比較を想定し、同内容の問を設けました。対象者が全く同じというわけではないため完全な経年変化とは言えないものの、異なる傾向が見られることがわかります。また『2021』のアンケート回収時点ではロシアによるウクライナ侵攻はまだ始まっていませんでした。

まず『2021』において最も数値が高かったのは<⑤ジェンダー平等を実現しよう>でしたが、今回は<④貧困をなくそう>となっています。ただし、今回のジェンダー別集計 (『2021』では無し) の女性の結果では、<⑤>が最も多く選ばれています。

校種別では、高校生・大学生の結果における<⑬平和と公正をすべての人に>の数値が、『2021』よりも伸びています。

1 https://www.kansaingo.net/user/media/file/youthSDGs_surveyresults.pdf p.11 にてご確認ください。

QRコード

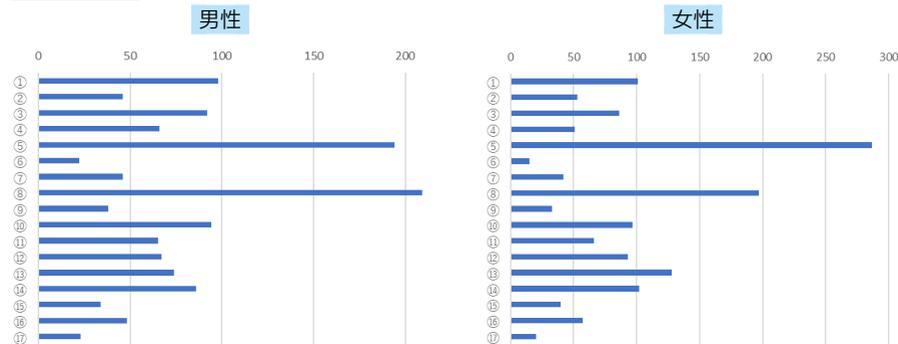


問 15 SDGs の 17 のゴールのうち、日本でより深刻な課題だと感じるゴールはどれですか【3 つまで選択可】【必須】

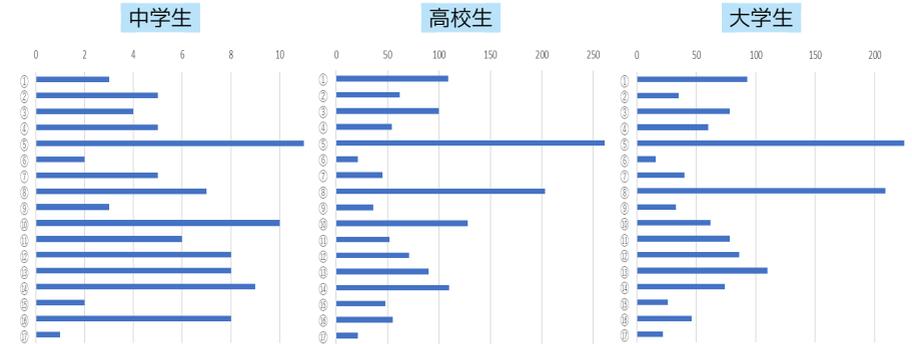
全体



ジェンダー別



校種別



comment!

この問も、『2021』第一部の【問 3-3】²との比較を想定し、同内容の問を設けたものです。
『2021』に引き続き、＜⑤ジェンダー平等を実現しよう＞が最も多く選択されています。次の【問 16 SDGs の 17 のゴールのうち、世界でより深刻な課題だと感じるゴールはどれですか】の結果（＜⑤＞の回答数が少ない）との違いを見てみても、ユースの間では依然、日本の課題として＜⑤＞が認識されていると言えるでしょう。また全集計のうちジェンダー別集計の男性の結果のみ、＜⑧働きがいも経済成長も＞が最多でその次に＜⑤＞が続く形となっています。
他には、『2021』では 2 番目に多く選択されていた＜⑬気候変動に具体的な対策を＞が、今回の結果ではそれほど目立たなくなっています。

2 https://www.kansaingo.net/user/media/file/youthSDGs_surveyresults.pdf
p.14 にてご確認ください。

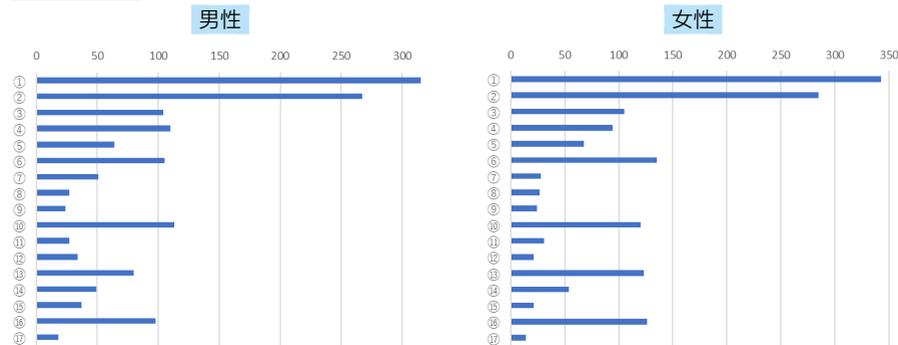


問 16 SDGs の 17 のゴールのうち、世界でより深刻な課題だと感じるゴールはどれですか【3 つまで選択可】【必須】

全体



ジェンダー別



校種別



comment!

この問も、『2021』第一部の【問 3-4】³との比較を想定し、同内容の問を設けたものです。

<①貧困をなくそう>、<②飢餓をゼロに>が突出していて、<⑥安全な水とトイレを世界中に>、<⑩人や国の不平等をなくそう>、<⑬気候変動に具体的な対策を>、<⑯平和と公正をすべての人に>が続いています。これは『2021』と変わらない傾向です。

またこの問は、全集計を通してそれぞれ互いにあまり変わらない結果となりました。世界に対するコースの認識は、ジェンダー間や年代間でもそれほど違いがないものと言えるかもしれません。

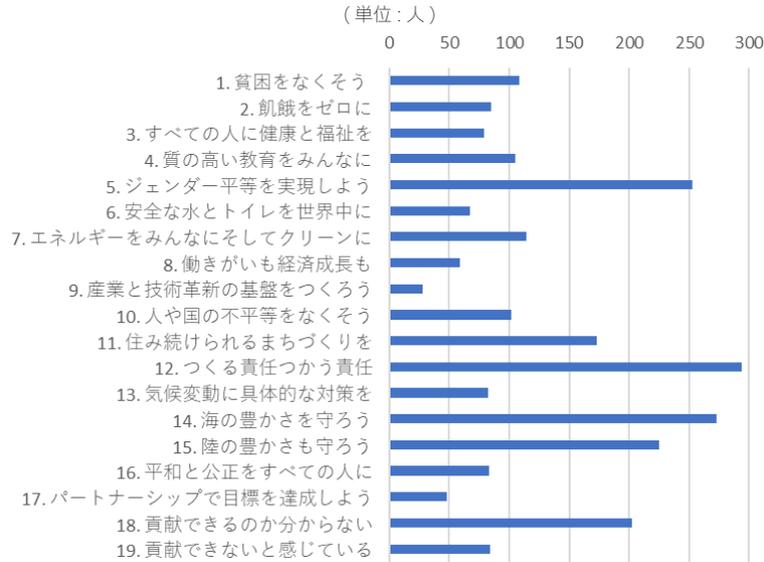
3 https://www.kansaingo.net/user/media/file/youthSDGs_surveyresults.pdf
p.15 にてご確認ください。



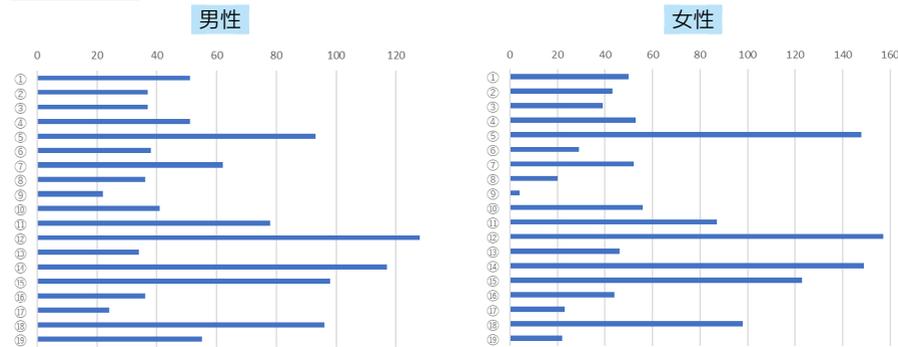
問 17 SDGs 達成のために自分が貢献できると思うゴールはどれですか

【複数選択可】【必須】

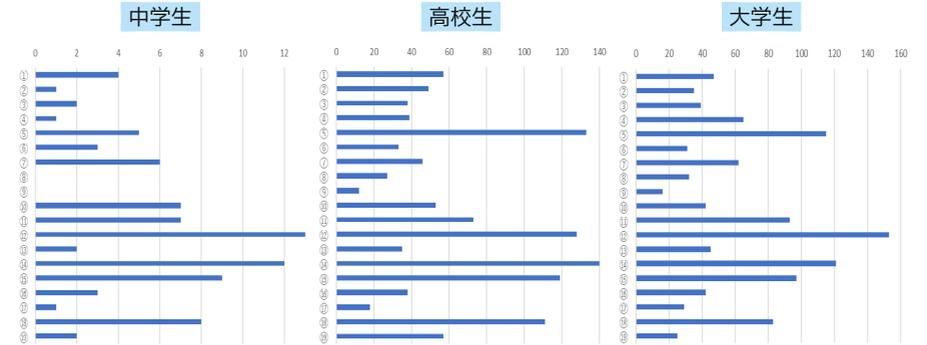
全体



ジェンダー別



校種別



comment!

この問も、『2021』第一部の【問 4-1】⁴との比較を想定し、同内容の問を設けたものです。
 全体的な傾向として<⑫つくる責任つかう責任>の数値が高いというのは『2021』と変わりありません。ただ、今回の校種別集計においては、高校生のみに<⑭海の豊かさを守ろう>が最多、続いて<⑤ジェンダー平等を実現しよう>、そして3番目に<⑫>となっており、他とは少し異なる順序となっています。
 他、『2021』に比べて全体的に<⑲貢献できないと感じている>の割合が増えているように見受けられますが、この結果からその要因まで推測することはできません。

4 https://www.kansaingo.net/user/media/file/youthSDGs_surveyresults.pdf
 p.16 にてご確認ください。



調査結果② (クロス集計分析結果)

分析協力：株式会社ファンドレックス

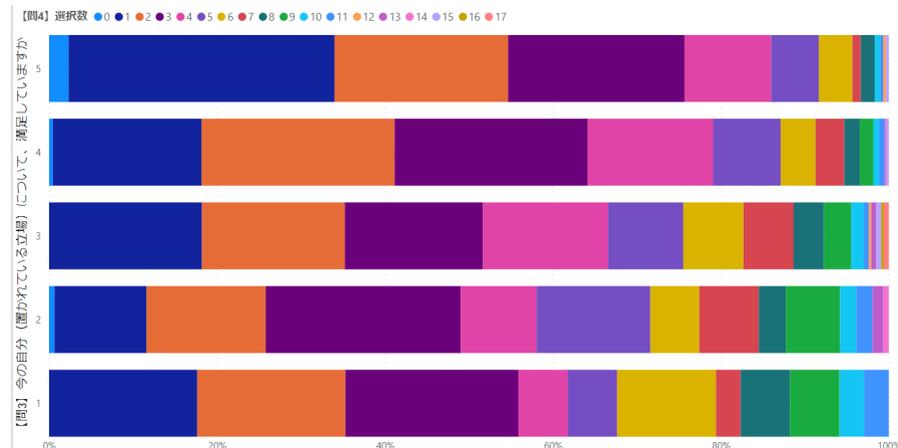
問3 今の自分（置かれている立場）× **問4** 最近困っていること・悩んでいることについて、満足していますか

※自分自身・家族や友だちとの関係・学校(大学)生活など全て含めて【必須】

【複数選択可】【必須】

今の自分への満足度の高さによって、困っていること・悩んでいることの数や種類にどのような違いが見られるかを検証しました。

グラフ1



※【問4】の選択枝の数を集計する際、【その他】に「なし/ない/特になし/（空欄）」を記載している場合はカウントしないこととする

こちらは、【問3】での満足度別に【問4】での回答の選択数ごとの人数の割合を示したグラフです。

満足度の<2>から<5（とても満足）>までは概ね、満足度が高いほど悩みの数も少ないという結果が見取れます。他、【問4】の選択数の多い人々を示した箇所（グラフ右側）に目を向けてみると、15個や17個など沢山の回答を選択している人が、満足度<3>の人に多いことがわかります。

表1 (問3のそれぞれの選択枝の回答者数を母数として、各行の割合を表示)

	【問3】今の自分(置かれている立場)について、満足していますか					合計
	1 (とても不満)	2	3	4	5 (とても満足)	
①自分の将来	64.7%	67.7%	68.1%	62.3%	55.7%	793
②勉強	44.1%	45.8%	47.8%	44.1%	40.0%	558
③進学	32.4%	37.4%	31.9%	28.7%	25.3%	377
④就職	26.5%	29.7%	26.9%	29.7%	22.3%	341
⑤お金	32.4%	36.8%	42.1%	32.9%	30.0%	442
⑥仕事やアルバイト	17.6%	19.4%	22.7%	16.8%	15.0%	230
⑦政治や社会	8.8%	8.4%	10.1%	6.9%	8.7%	106
⑧自分の容姿	35.3%	32.3%	25.7%	17.2%	12.7%	261
⑨自分の性格や能力	50.0%	46.5%	35.8%	26.2%	13.7%	364
⑩身体の健康	5.9%	15.5%	15.5%	11.0%	11.3%	160
⑪心の健康	35.3%	22.6%	17.6%	10.3%	6.0%	169
⑫恋愛	20.6%	21.9%	20.3%	18.6%	14.7%	234
⑬友人(同級生、先輩、後輩など)	26.5%	27.1%	16.7%	10.1%	2.3%	158
⑭家族(親、兄弟姉妹、親戚など)	8.8%	14.2%	6.3%	4.1%	3.3%	74
⑮学校・大学に関すること	11.8%	20.0%	12.8%	10.3%	5.0%	138
⑯SNS上でのトラブル	0.0%	0.6%	2.1%	0.5%	0.0%	10
⑰新型コロナウイルス	0.0%	1.9%	2.7%	1.8%	2.3%	27
⑱その他	0.0%	0.6%	0.6%	0.9%	3.3%	17
合計(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	1259
合計(人数)	34	155	335	435	300	

【表1】で具体的にどのような困りごとや悩みを選択しているかを見ると、【問3】の満足度が低い人の中でほど、【問4】の、特に<⑧自分の容姿>、<⑨自分の性格や能力>、<⑪心の健康>を選んでいる割合が高いことがわかります。つまり、そうした悩みが満足度の低さの大きな要因になっている可能性が高いことが読み取れます。その意味では、このクロス集計表の結果は、単純集計結果の【問4】で触れたユースの自己肯定感に関する懸念が改めて確認されるものと言えるかもしれません。

一方で、<⑤お金>や<⑦政治や社会>、<⑩身体の健康>などの数値は、【問3】で見た満足度の違いにあまり左右されていない悩み、あるいは【問3】で<3>を選んでいて多く選ばれている悩みだと言うことができます。少なくとも、満足度の低さの大きな要因となっている悩みというわけではなさそうです。



問3 今の自分（置かれている立場）× **問10** 今の日本の大人・社会について、満足していますか
 ×自分自身・家族や友だちとの関係・学校(大学)生活など全て含めて【必須】

今の自分に対する満足度と、今の日本の大人・社会への満足度の間に何らかの関連性が見られるかどうかを検証しました。

表2 (問3のそれぞれの選択肢の回答者数を母数として、各行の割合を表示)

		【問3】今の自分(置かれている立場)について、満足していますか					
		1 (とても不満)	2	3	4	5 (とても満足)	合計
お聞きください 「問10」今の日本の大人・社会について、どう感じていますか。	1(とても不満)	35.3%	18.1%	15.2%	11.0%	16.3%	188
	2	29.4%	41.3%	34.6%	32.2%	24.3%	403
	3	26.5%	38.1%	44.2%	44.1%	41.3%	532
	4	5.9%	1.9%	4.5%	10.6%	13.0%	105
	5(とても満足)	2.9%	0.6%	1.5%	2.1%	5.0%	31
	合計(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計(人数)		34	155	335	435	300	1259

【問3】の<2>~<5(とても満足)>の列では、それぞれ【問10】の単純集計結果の全体集計とほぼ同じ傾向が見られます。しかし一方で<1(とても不満)>を選んでいる人の列を見ると、今の日本の大人・社会(【問10】)についても同様に<1(とても不満)>を選んでいるという人の割合が最も多く、<4>や<5(とても満足)>を選んでいる人の割合は極端に少なくなっています。つまり、今の自分に満足している人の多くが今の日本の大人・社会に満足しているわけではないのに対し、今の自分に不満を持っている人の多くは今の日本の大人・社会についても不満を持っているということが読み取れます。

【表2'】にて実際の人数を見てみると、今の自分に対する満足度としては<4>を選び、かつ今の日本の大人・社会についての満足度としては<3>を選んでいる人、つまり「今の自分については概ね満足していて、今の日本の大人・社会についてはどちらとも言えない」という人が、192人(全体の約15.3%)と最も多いことがわかります。

表2'

		【問3】今の自分(置かれている立場)について、満足していますか					
		1 (とても不満)	2	3	4	5 (とても満足)	合計
お聞きください 「問10」今の日本の大人・社会について、どう感じていますか。	1(とても不満)	12	28	51	48	49	188
	2	10	64	116	140	73	403
	3	9	59	148	192	124	532
	4	2	3	15	46	39	105
	5(とても満足)	1	1	5	9	15	31
	合計(人数)	34	155	335	435	300	1259

問5 社会に出てから、自分の望む生き方ができると感じますか【必須】 × **問10-1** 今の日本の大人・社会について、ご自身の気持ちに近いものを選択してください【複数選択可】【必須】

社会に出てから自分の望む生き方ができると感じているかどうかによって、社会や大人に対する気持ちにどのような違いが見られるかを検証しました。

表3 (問5のそれぞれの選択肢の回答者数を母数として、各行の割合を表示)

		【問5】社会に出てから、自分の望む生き方ができると感じますか					
		①できると 思う	②それなりに できると 思う	③あまりでき ないと思 う	④できない と思う	⑤わからない	合計
社会に 近いもの について、 複数選択 してください に	①充分、若者の気持ちを理解していて、意見を反映している	11.6%	3.5%	2.4%	3.3%	2.6%	51
	②それなりに、若者の気持ちを理解していて、意見を反映している	14.3%	17.9%	9.9%	8.3%	11.9%	179
	③あまり、若者の気持ちを理解しておらず、意見を反映していない	25.2%	38.3%	40.8%	28.3%	30.9%	450
	④全く、若者の気持ちを理解しておらず、意見を反映していない	17.0%	10.1%	14.6%	16.7%	12.9%	160
	⑤何を言っても変わらないため、期待していない	25.9%	31.0%	36.1%	61.7%	30.4%	415
	⑥大人が作った社会の責任を若者に負わせないでほしい	19.7%	31.7%	38.1%	41.7%	28.9%	401
	⑦無力感・未来への絶望を感じる	13.6%	15.4%	26.9%	41.7%	22.7%	255
	⑧もっと若者の権利や主張を尊重してほしい	17.7%	20.2%	24.1%	26.7%	19.6%	265
	⑨大人は、将来を考えよい社会を築いてきた	6.8%	2.5%	2.7%	3.3%	3.1%	40
	⑩大人と力を合わせてもっと社会や世界をよくしていきたい	20.4%	18.1%	16.0%	15.0%	14.4%	216
⑪わからない	10.2%	10.1%	11.6%	8.3%	22.2%	154	
⑫その他	2.0%	3.7%	2.4%	3.3%	3.1%	39	
合計(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
合計(人数)		147	564	294	60	194	1259

【問5】の<①できると思う>、<②それなりにできると思う>、<③あまりできないと思う>の列ごとの数値のバランスが概ね似通っている一方で、<④できないと思う>の列のみ、【問10-1】で<⑤何を言っても変わらないため、期待していない>を選択した人の割合が61.7%と突出しています。そしてやはり全体的に、自分の望む生き方ができないと思っている人の中でほど、【問10-1】において<⑤>以外にも<⑥大人が作った社会の責任を若者に負わせないでほしい>や<⑦無力感・未来への絶望を感じる>といったネガティブな意見が多く選ばれがちな傾向が

見られます。そのような中【問5】で<①>を選んでいる人のうちでも約4人に1人が、今の日本の大人・社会についての気持ちとして<③あまり、若者の気持ちを理解しておらず、意見を反映していない> (25.2%)、<⑤> (25.9%) をそれぞれ選択しています。社会に出てから自分の望む生き方ができると思っている、大人や社会に対してこうした気持ちを抱いているコースが一定数いるということ、私たち大人は改めてしっかりと認識する必要があるでしょう。

下記【表3'】で列ごとの割合ではなく実際の人数を見ても、社会に出てから、自分の望む生き方は「それなりにできると思」っていて、かつ今の日本の大人・社会については「あまり、若者の気持ちを理解しておらず、意見を反映していない」という気持ちを抱いている人が全体の中で最も多い (216人/全体の約17.2%) ことがわかります。

表3'

【問5】社会に出てから、自分の望む生き方ができると思いますか						
	① できる と思う	② それなり にでき ると思 う	③ あまり できな いと思 う	④ できな いと思 う	⑤ わか らな い	合計
①充分、若者の気持ちを理解していて、意見を反映している	17	20	7	2	5	51
②それなりに、若者の気持ちを理解していて、意見を反映している	21	101	29	5	23	179
③あまり、若者の気持ちを理解しておらず、意見を反映していない	37	216	120	17	60	450
④全く、若者の気持ちを理解しておらず、意見を反映していない	25	57	43	10	25	160
⑤何を言っても変わらないため、期待していない	38	175	106	37	59	415
⑥大人が作った社会の責任を若者に負わせないでほしい	29	179	112	25	56	401
⑦無力感・未来への絶望を感じる	20	87	79	25	44	255
⑧もっと若者の権利や主張を尊重してほしい	26	114	71	16	38	265
⑨大人は、将来を考えよ社会を築いてきた	10	14	8	2	6	40
⑩大人と力を合わせてもっと社会や世界をよくしていきたい	30	102	47	9	28	216
⑪わからない	15	57	34	5	43	154
⑫その他	3	21	7	2	6	39
合計(人数)	147	564	294	60	194	1259

問7 新型コロナウイルス感染症の流行をへて、社会・世界の出来事への関心の高さは変化しましたか【必須】

社会・世界の出来事への関心の高さの変化と平和への関心の高さの変化の組み合わせにどのような傾向が見られるかを検証しました。

表4

【問7】新型コロナウイルス感染症の流行をへて、社会・世界の出来事への関心の高さは変化しましたか							
平和への関心の高さは変化しましたか	問8 ロシアによる ウクライナへの 軍事侵攻によっ て、	① 高く なった	② 低く なった	③ 以前から 高いまま 変わって いない	④ 以前から 低いまま 変わって いない	合計	
		①高くなった	591	15	114	109	829
		②低くなった	10	4	11	3	28
		③以前から高いまま変わっていない	90	7	101	46	244
		④以前から低いまま変わっていない	42	5	15	96	158
合計(人数)	733	31	241	254	1259		

両方の間で<①高くなった>を選択した人がかなり突出して多い結果となりました (591人/全体の約46.9%)。

他、両方の間で<②低くなった>を選択したという人はかなり少ない (4人) 一方で、新型コロナの流行をへて社会・世界の出来事への関心の高さが<④以前から低いまま変わっていない>の人が254人 (全体の約20.2%)、ウクライナ侵攻によって平和への関心の高さが<④以前から低いまま変わっていない>の人が158人 (全体の12.5%) と、それぞれの問において<④>を選択している人は一定数いることがわかります。

ウクライナ侵攻に限らずガザでの危機もそうですが、こうした、それまでも増して悲惨な非人道的な出来事が無いとなかなか関心が高まらないという現実を思うと、社会・世界への関心、平和への関心の高まりを必ずしも喜ぶこともできないような複雑な気持ちにさせられます。新型コロナウイルスは別としても、ウクライナやガザの危機を含む世界の危機・紛争は、私たち国際社会の関心の低さもその発生の一因に大いになり得るものです。国際協力やSDGsの普及啓発活動を行うNGO/CSOとしては、新たなウクライナ、新たなガザを生む可能性を少しでも下げられるよう、そして何より現在起こっているこうした危機を一秒でも早く止められるよう、今後も発信を続け、そしてコースを含めた市民の皆さんと一緒に声を上げ続けていきたいと思っています。

問 12 SDGs に関心がありますか **X** 【必須】

問 11 海外志向について、ご自身の考えに最も近いものを選択してください 【必須】

SDGs への関心の高さと海外志向の間に何らかの関連性が見られるかどうかを検証しました。

表 5 (問 12 のそれぞれの選択肢の回答者数を母数として、各行の割合を表示)

【問12】SDGsに関心がありますか						
	①とても関心がある	②関心がある	③どちらともいえない	④あまり関心がない	⑤全く関心がない	合計
①海外留学や海外での就職などに関心がある	39.6%	35.2%	24.7%	25.0%	23.2%	381
②海外留学や海外での就職などに関心があるが、経済的な問題で踏み出せない	15.3%	13.1%	12.1%	8.3%	4.0%	148
③海外留学や海外での就職などに関心があるが、心理的な不安で踏み出せない	22.2%	19.3%	19.6%	20.5%	15.2%	246
④海外留学や海外での就職などに関心がない	22.2%	31.6%	42.5%	44.2%	57.6%	472
⑤その他	0.7%	0.8%	1.0%	1.9%	0.0%	12
合計(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計(人数)	144	472	388	156	99	1259

【問 11】で<④海外留学や海外での就職などに関心がない>を選んでいる人の列ごとの割合を見てみると、概ね、SDGs への関心が下がるにつれ、海外留学や海外での就職などへの関心も下がっているということが全体的な傾向として言えそうです。

【表 5'】にて実際の人数を見てみると、【問 12】で<②関心がある>を選び、かつ【問 11】で<①海外留学や海外での就職などに関心がある>を選んでいる人が、166 人と最も多いことがわかります。これは全体の約 13.2%を占める数値です。またほぼ同じ人数である 165 人の人が、【問 12】で<③どちらともいえない>を選び、かつ【問 11】で<④海外留学や海外での就職などに関心がない>を選んでいます。そして次いで多いのが【問 12】で<②>を、【問 11】で<④>を選んでいる人で、149 人 (全体の約 11.8%) です。

既述のように、SDGs への関心が下がるにつれ海外志向も弱まるという傾向は概ね見られるものの、SDGs に関心を持っている層の中にも、海外留学や海外での就職などへの関心がない人は一定数いるということがわかります。単純集計結果の【問 11-1】の欄に記載している<④>を選んだ理由の中に「日本を変えたい」という回答があったように、海外志向を持たないことは必ずしもネガティブな選択ではないのではないかということが伺えます。

表 5'

【問12】SDGsに関心がありますか						
	①とても関心がある	②関心がある	③どちらともいえない	④あまり関心がない	⑤全く関心がない	合計
①海外留学や海外での就職などに関心がある	57	166	96	39	23	381
②海外留学や海外での就職などに関心があるが、経済的な問題で踏み出せない	22	62	47	13	4	148
③海外留学や海外での就職などに関心があるが、心理的な不安で踏み出せない	32	91	76	32	15	246
④海外留学や海外での就職などに関心がない	32	149	165	69	57	472
⑤その他	1	4	4	3	0	12
合計(人数)	144	472	388	156	99	1259

問 10 今の日本の大人・社会について、どう感じていますか。正直な気持ちをお聞かせください 【必須】

問 12-1 SDGs について、ご自身の考えに近いものを選択してください 【複数選択可】 【必須】

今の日本の大人・社会への気持ちと SDGs についての考えの組み合わせに何らかの傾向が見られるかを検証しました。

表 6 (問 10 のそれぞれの選択肢の回答者数を母数として、各行の割合を表示)

【問10】今の日本の大人・社会について、どう感じていますか。正直な気持ちをお聞かせください						
	1 (とても不満)	2	3	4	5 (とても満足)	合計
①そもそもSDGsはやる必要がない	9.0%	2.5%	3.6%	1.9%	19.4%	54
②自分には関係がない	5.3%	2.0%	3.6%	3.8%	3.2%	42
③SDGsは聞き飽きた / 面倒	23.4%	12.2%	12.6%	11.4%	12.9%	176
④SDGsは目標があいまいで、具体性がない	29.8%	28.3%	17.5%	20.0%	9.7%	287
⑤SDGsをもっとよく知る機会を設けるべき	20.7%	31.0%	24.6%	29.5%	32.3%	336
⑥政府や自治体、企業の取り組みなどに不信感がある	21.3%	18.4%	8.6%	6.7%	6.5%	169
⑦もっと大人に積極的に取り組んでほしい	25.5%	18.6%	13.5%	16.2%	12.9%	216
⑧どうせ自分には何もできないと感じる	14.9%	6.5%	7.0%	12.4%	0.0%	104
⑨何をすればよいかわからない	24.5%	24.8%	30.6%	21.0%	12.9%	335
⑩選択肢が多すぎて、行動に移せない	14.4%	16.1%	11.7%	13.3%	9.7%	171
⑪自分なりに取り組んでいると感じる	11.7%	11.9%	14.1%	9.5%	9.7%	158
⑫積極的に取り組んでいる(取り組みたい)	10.1%	4.0%	5.1%	6.7%	6.5%	71
⑬もっと周りの人を巻き込んで、SDGsを推進していきたい	11.7%	5.0%	6.2%	3.8%	0.0%	79
⑭その他	3.2%	4.7%	1.3%	2.9%	0.0%	35
合計(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計(人数)	188	403	532	105	31	1259

【問 10】の<2>~<4>の列ごとの数値は、単純集計結果の【問 12-1】の全体集計の数値と概ね同じ傾向が見られます。一方で<1 (とても不満)>の列を見てみると、【問 12-1】の全回答において一定以上の数値が示されていることがわかります。中でも、単純集計結果の全体集計においては数値の低かった<②自分には関係がない>、<⑫積極的に取り組んでいる(取り組みたい)>、<⑬もっと周りの人を巻き込んで、SDGsを推進していきたい>を選択している人の割合が、他の列に比べて多くなっています。これらから、今の日本の大人・社会に対して「とても不満」だと感じている人の中には、そのまま無気力になり SDGs に対してもネガティブな考えを持ってしまう人もいれば、一方で不満を持っているからこそ、そうした社会を変えていく必要があるということで SDGs に対して積極的な考えを持つ人もいる、というような状況が推測されます。

私たち NGO/CSO としては、【問 12-1】における<⑤ SDGsをもっとよく知る機会を設けるべき>や<⑨何をすればよいかわからない>の数値の高さを少しでも解消できるよう、これからもユースに対する学び・経験の機会の提供に努めると共に、それだけでなく<⑫>や<⑬>を選ぶユースと協働しながら、社会を動かし、変えていく努力も継続していきたいと考えています。

おわりに

いかがでしたでしょうか。前回 2021 年度のアンケートが「SDGs は重要なもの・全員でしっかり取り組む必要があるもの」という価値観を前提に設計したのだったのに対し、今回のアンケートは必ずしもそうでない、SDGs や社会などに対する様々なネガティブな感情や考えというものも含めて想定し、設計をしました。その結果として、2021 年度のアンケートや 2022 年度のインタビューでは拾えていなかったようなネガティブな声も、少しは可視化することができたのではないかと考えています。

日本のコースに関しては、[はじめに]に記載した社会への無関心や投票率の低さといったことの他、極端な自己責任論や自己肯定感の低さなどが指摘されることもあります。それらに対しては、関心を高めよう・自己肯定感を上げようという方向でのアプローチが取られがちですが、本来は、その背景・原因がどこにあるのかをきちんと分析し、それを踏まえた、視野をより広く持った対策がとられるべきなのではないでしょうか。このアンケート結果が、そうした見えづらい部分・表面化しにくい要素に、私たち大人・社会が今後より目を向けていくための端緒となることを願います。

この 3 年間のコースを対象とした意識調査を通して見えてきたものを大切にしながら、私たち関西 NGO 協議会は、この社会・世界を、コースが自分たちの将来に希望を持てるものにしていけるよう、これからも活動・発信を続けます。この一連の意識調査はここで一区切りとなりますが、この冊子を手にとってくださった皆さまは、関西 NGO 協議会、そして日本の市民社会のあらゆる取り組みに、今後も関心を寄せていただけると幸いです。

そして最後になりましたが、この 3 年間の意識調査にご協力いただいたすべての皆さま、本当にありがとうございました。



QRコード



関西 NGO 協議会について

私たちは、主に関西に活動拠点を置く NGO が全国・世界の NGO/CSO と連携を強め、NGO/CSO 同士のネットワークを形成し連帯を促進することで、それぞれの活動をより充実・発展させることを目的としたネットワーク型の国際協力 NGO です。

普及啓発活動の他、政策提言活動や相談対応、助成事業など、様々な活動・事業を行っています。

詳しくは HP をご覧ください。

関西 NGO 協議会：

<https://kansaingo.net/>



SDGs in KANSAI について

SDGs in KANSAI は、市民社会の立場から、他セクターとのパートナーシップを重視しつつ、「自然・環境」「経済」「社会」の調和と、市民の意思を反映させた決定のプロセスを大切にしている取り組みです。SDGs が示している課題は国際社会、日本社会、地域社会それぞれのレベルで私たちの生活と密接に関わっています。

2030 年の関西、日本、世界を想い、ぜひ私たちと一緒に SDGs について考え、それを行動に移し、誰ひとり取り残すことのない社会の実現に向けて歩き出しましょう。詳しくは HP をご覧ください。

SDGs in KANSAI：

<http://kansaingo.net/kansai-sdgs/>

QRコード



ワン・ワールド・フェスティバル for Youth について

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth は、

(特活) 関西 NGO 協議会が主催する、高校生を中心とした国際協力・SDGs・多文化共生のフェスティバルです。問題を知るだけでなく、解決に向けて何かアクションを起こしたいというコースが「最初的一步」を踏み出すべく、「高校生実行委員会」や「ボランティアリーダー」として、定期的に会議を重ね、テーマの決定、企画、運営、広報など準備をし、開催しています。詳しくは HP をご覧ください。

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth：

<https://owf-youth.com/index.html>

QRコード



中高大学生を対象とした
**自分・社会・世界に関する
意識調査アンケート
調査結果報告書 2023**

2024年3月発行

編集・発行 特定非営利活動法人関西 NGO 協議会
〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町 2-30 4 階
TEL：06-6377-5144 FAX：06-6377-5148
メール：knc@kansaingo.net

執筆 仲井友佳子、菅野諒子
監修 栗田佳典

装丁・デザイン 竹本綾乃

印刷 有限会社糺書房

本冊子の内容及び使用されているイラストや写真の全部または一部を無断で複製・複写することは禁止します。

本調査の実施および本冊子の作成は、独立行政法人環境再生保全機構「2023年度 地球環境基金」の助成を受けて行いました。



この印刷物は、自然エネルギー（バイオマス発電 4.5kWh）を使用して印刷しました。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

